JXCONコンフィギュレータソフトウェア
（形式：JXCON）
取扱説明書

（本取扱説明書はコンフィギュレータソフトウェアのバージョン Ver12.XX に対応しています）

株式会社 エム・システム技研

NM－9257－B 改 25

目次

1. はじめに....4
1.1. JXCONとは....4
1.2. 動作環境....4
1.3. 取扱説明書の改訂履歴....4
1.3.1. V01.01 での変更点....5
1.3.2. V02.01 での変更点....5
1.3.3. V03.01 での変更点....5
1.3.4. V03.02 での変更点....5
1.3.5. V03.03 での変更点....5
1.3.6. V03.04 での変更点....6
1.3.7. V03.05 での変更点....6
1.3.8. V03.06 での変更点....6
1.3.9. V04.01 での変更点....6
1.3.10. V04.02 での変更点....6
1.3.11. V04.03 での変更点....6
1.3.12. V04.04 での変更点....7
1.3.13. V04.05 での変更点....7
1.3.14. V05.01 での変更点....7
1.3.15. V06.01 での変更点....7
1.3.16. V06.02 での変更点....7
1.3.17. V07.01 での変更点....7
1.3.18. V07.02 での変更点....7
1.3.19. V07.03 での変更点....7
1.3.20. V08.05 での変更点....7
1.3.21. V09.01 での変更点....8
1.3.22. V09.02 での変更点....8
1.3.23. V10.01 での変更点....8
1.3.24. V11.01 での変更点....8
1.3.25. V11.02 での変更点....8
1.3.26. V12.01 での変更点....8
1.3.27. V12.08 での変更点....8
1.3.28. V12.09 での変更点....8
1.4. 適用機種....9
2. JXCONを使うための準備....11
2.1. JXCONのインストール....11
2.2. JXCONのアンインストール....11
2.3. JXCONの起動と終了....12
2.3.1. JXCONの起動....12
2.3.2. JXCONの終了....12
3. JXCONの使い方....13
3.1. 変換器のパラメータをパソコン上に読み込む（アップロード）....13
3.2. 変換器のパラメータをファイルに保存する（ファイルに保存）....13
3.3. ファイルに保存された変換器パラメータを読み出す（ファイルを開く）....14
3.4. 変換器パラメータの作成・変更....14
3.5. 設定値チェックボタンの使い方....14
3.6. 変換器のパラメータを変換器に書き込む（ダウンロード）....14
4. JXCONの画面と操作....15
4.1. 画面構成....15
4.2. 各ページの構成と機能....16
4.2.1. 「ﾌｧｲﾙ」ページの設定項目とコマンドボタン....16
4.2.2. 「ﾎﾟｰﾄ」ページの機能....16
4.3. 変換器機種ごとの画面構成と機能....17

4.3.1. ユニバーサル変換器（JUA）の画面構成と機能 17
4.3.2. スペックソフト形変換器の構成と機能（その１） 18
4.3.3. スペックソフト形変換器の構成と機能（その２） 20
4.3.4. スペックソフト形変換器の構成と機能（その３） 22
4.3.5. ＰＣスペック形変換器の構成と機能 26
4.3.6. ＰＣスペック形ユニバーサル入力変換器（M2XU,M2XUM）の構成と機能 28
4.3.7. ＰＣスペック形パルスアナログ変換器（M2XPA）の構成と機能 29
4.3.8. ＰＣスペック形パルスアナログ変換器（M2XPA2）の構成と機能 30
4.3.9. ＰＣスペック形パルスアナログ変換器（M2XPA3）の構成と機能 31
4.3.10. ＰＣスペック形ロータリエンコーダ速度変換器（M2XRP2）の構成と機能 32
4.3.11. ＰＣスペック形変換器（M8X□2,M8X□3）の構成と機能 33
5. 画面イメージ（JUAの例） 34
6. V04.05 でのサポート機能 39
6.1. 「ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ」ページ画面 39
6.2. 「I/Oﾁｪｯｸ」ページ画面 40
6.3. 「入力」ページ画面 41
7. V05.01 でのサポート機能 43
7.1. 「Comp.」ページ画面 43
7.2. 「RTD TBL」ページ画面 45
8. V07.01 でのサポート機能 46
8.1. 「入力」ページ画面 46

1. はじめに

本書は，Windows2000,XP,7,8 の操作や用語を理解している方を前提にしています。
Windows2000,XP,7,8 の操作や用語については、それぞれのマニュアルを参照してください。
本書で示す画面／ウィンドウはイメージを示すものです。バージョンアップにより細部が変更されることがあります。

1.1. JXCON とは

JXCON は、変換器の各種パラメータの参照、設定、変更、管理を容易に行うためのツールです。サポートしている変換器及びパラメータについての詳細は、4.3.項を参照してください。
JXCON を使用すると，次の①～⑥をおこなうことができます。

① アップロード
・変換器の各種パラメータをパソコンに読み込み，JXCON 画面に表示する。

② ファイルに保存
・JXCON 画面に表示された変換器パラメータをファイルに保存する。

③ ファイルを開く
・②で保存したファイルをパソコンに読み込み，画面に表示する。

④ 変換器パラメータの作成・変更
・既に JXCON 画面に表示されている変換器パラメータを，画面上で変更する。
・画面上で，変換器パラメータを新規作成する。

⑤ 設定値のチェック
・JXCON 画面に表示された変換器パラメータが設定可能範囲に収まっているか，チェックする。

⑥ ダウンロード
・画面に表示された変換器パラメータを変換器にコピーする。

1.2. 動作環境

JXCON の動作に必要な環境は以下の通りです。

- IBM PC/AT 互換のパソコン
- Microsoft Windows2000, XP, 7, 8
- CD-ROM ドライブ
- ハード・ディスク空き容量：20 MB
- Serial Port（COM1～COM4）
- パソコンと変換器との接続ケーブル

ＪＸ変換器シリーズ： 25-9 ピン変換アダプタ＋非絶縁レベル変換器、カールコード（非絶縁形接続キットＢ）またはコンフィギュレータ接続ケーブル（別売り）（形式：COP-UM）

ＰＣスペック形変換器シリーズ：ＰＣスペック形変換器用非絶縁ケーブル（非絶縁形接続キットＡ）またはコンフィギュレータ接続ケーブル（別売り）（形式：COP-US）

1.3. 取扱説明書の改訂履歴

本書は、JXCON プログラムのバージョン Ver12.XX（XX は小文字英数字）の取扱説明書です。
JXCON のプログラムバージョンはプログラム起動画面の右下に表示されています。ご確認ください。

1.3.1. V01.01 での変更点

- JUA での機能アップ（警報設定値の工業単位での設定、警報出力リレーの励磁特性の設定など）に対応しました。
- JUA, M2XT, M2XR での標準以外の熱電対、測温抵抗体時のスケールなどのパラメータ設定変更を可能にしました。
- M2XF のサポートを新規追加しました。
- 設定値チェックでは、すべての設定値をチェックし、エラーがある項目の表示色を変えようにしました。１回のチェックですべてのチェック結果が分かるようにしました。また、エラー箇所を変更した場合、その項目は表示色を正常状態に戻すようにしました。エラー箇所の修正作業がやりやすくなりました。

1.3.2. V02.01 での変更点

- 絶縁２出力超小型信号変換器ピコマルシリーズの M8XV, M8XT, M8XF のサポートを新規追加しました。
- JUA での機能アップ（警報ヒステリシス幅の工業単位での設定）に対応しました。
- 温度表示がある機種（JUA,JT,JR,JDL,M2XT,M2XR,M8XT）で、温度単位を“K”→“F”へ変更した時と“℃”→“F”へ変更した時との間に、温度表示に誤差が出ることがありました。
  ⇒ 温度表示に誤差が出ないようになりました。
- 設定値チェックで、スケーリング 0%設定値と 100%設定値とのどちらかがエラーになった時、両項目の表示色が共に変わりました。
  ⇒ エラーになった方の項目だけの表示色が変わるようになりました。

1.3.3. V03.01 での変更点

- JF, JFK, JPA, JS, 18JN, 18JDN, JDL, JB のサポートを新規追加しました。
- 絶縁２出力超小型信号変換器ピコマルシリーズの M8XR, M8XM のサポートを新規追加しました。
- リニアライザ機能がある機種（JUA,10JRE,JM,JFX,JFX1,JPA,JS）で、ダウンロード時のデータ照合エラーが発生することがありました。
  ⇒ データの照合に許容誤差の設定を行い、照合エラーが発生しないようにしました。
- 機種名を選択した時に、前に選択していた機種での設定値が、各項目に残っていることがありました。
  ⇒ 他の機種名を選択した時は、前の設定値はクリアされるようになりました。
- アップロードをした時に、設定不必要の項目に“error”を表示していました。
  ⇒ 設定不必要の項目は、設定不可の状態（グレーの表示色）になるようにしました。
- リニアライザ機能がある機種で、オプションを無の設定にしてアップロードをした時、ダウンロードしてある情報が、オプション有／リニアライザテーブル情報有であっても、テーブル情報をアップロードしてきませんでした。
  ⇒ アップロード時のオプションの有無にかかわらず、ダウンロードされている情報のとおりをアップロードするようになりました。
- センサ用電源付 JX パルス変換器シリーズ
  （JPAD,JPQD,JRPD,JRQD,JARP,JAPD,JPRD,JPSM,JFRD）で、アップロード時に正しい値を得ることができず、“undefined”が表示されることがありました。
  ⇒ 全ての項目で、正しい値をアップロードするようになりました。

1.3.4. V03.02 での変更点

- ＰＣスペック形コンパクト変換器シリーズ（形式：M2XV, M2XT, M2XR, M2XM, M2XF）の DC 出力タイプを変更できるようになりました。

1.3.5. V03.03 での変更点

- ユニバーサル変換器（JUA）の入力の種類を mv-0 または mv-Z に設定した時、スケーリング値に負の値が設定できなかったので、設定できるようにしました。

1.3.6. V03.04 での変更点

- JUA で、入力が“2-10mA”の時の Dip スイッチの表示が間違っていました。
  ⇒ 正しい表示になりました。
- 温度表示がある機種（JUA,JT,JR,JDL,M2XT,M2XR,M8XT,M8XR）で、温度単位を“F”または“K”で設定してある変換器を、JXCON を起動して最初にアップロードした時に、正しい値を得ることができませんでした。
  ⇒ 正しい値をアップロードするようになりました。
- 冷接点温度表示がある機種（JUA,M2XT,M8XT）で、CJM モニタ表示の単位が、温度単位変更時に正しい単位に入れ替わるようになりました。
- M2XF のリニアライザの値を正しくアップロードするようになりました。

1.3.7. V03.05 での変更点

- JPAD,JRPD,JPRD,JPSM,JFRD で、出力 0%に当たる入力周波数の設定値制限を - 100kHz～99.99kHz、出力 100%に当たる入力周波数の設定値制限を 0.1Hz～100kHz に修正しました。
- JPRD,JPSM で、出力周波数の制限値の設定値制限を 0.1Hz～100kHz に修正しました。
- M8 シリーズで、出力ﾀｲﾌﾟの変更に関わらず、DAC 出力ﾀｲﾌﾟは常に２となるよう修正しました。

1.3.8. V03.06 での変更点

- 温度単位表示を、“℃”を“deg C”に、“°Ｆ”を“deg F”に変更しました。
- 異なる言語環境で作成した JXCON をインストールした時、入力タイプのメニュー選択枠をクリックすると、システムエラーになり JXCON が終了してしまう不具合がありました。
  ⇒ 入力タイプのメニュー選択の操作が正しくできるよう、修正しました。
- M2XT, M2XR, M8XT, M8XR において、温度単位(Item21)で“°Ｆ”または“K”を選択し、ダウンロードした後、温度単位を初期値“℃”に戻しアップロードすると、温度単位(Item21)はダウンロード時の単位が選択されているが、スケーリング 0%値/100%値(Item14/Item15)の単位が初期値“℃”のままになる不具合がありました。
  ⇒ 単位を“deg C”，“deg F”の表示に直し、ダウンロード時の単位がアップロード時に、正しく表示するように修正しました。

1.3.9. V04.01 での変更点

- M2XU,M2XUM のサポートを新規追加しました。

1.3.10. V04.02 での変更点

- JPA の周波数レンジの変更ができない不具合がありました。
  ⇒ 周波数レンジの変更が正しくできるよう、修正しました。
- JPA をアップロード後すぐ設定値チェックを行うと、システムエラーになり JXCON が終了してしまう不具合がありました。
  ⇒ 正しく動作するように修正しました。
- JPA の I/O チェックの入力周波数表示の単位を正しく表示するように修正しました。
- タグ名に半角英数字以外の文字を設定できないように修正しました。
- JPAD,JRPD,JFRD の出力 100%に当たる入力周波数(Item13)で、“0.0001kHz”を記入しダウンロードすると“1000Hz”が設定されてしまう不具合がありました。
  ⇒ 出力 100%に当たる入力周波数(Item13)の設定は、有効数字４桁とするため、“0.0001”は設定できないように修正しました。
- M2XU,M2XUM において、テーブル（リニアライザ、TC、RTD）の設定値の範囲チェックをデータ書き込み時に行うよう追加しました。

1.3.11. V04.03 での変更点

- V3.05、V3.06、V4.01 で、M2XF のリニアライザ値を正しくアップロードできませんでした。
  ⇒ 正しい値（小数点第三位以下四捨五入した値）をアップロードし表示するよう修正しました。
- JUA で、Dip スイッチの表示が間違っていました。
  ⇒ “|IN|=>1V”を“|IN|>1V”、 “|IN|=>10mA”を“|IN|>10mA”に修正しました。

⇒ スケーリング 0%値/100%値(Item14/Item15)の設定値に従い、正しく表示するよう修正しました。

- M2X シリーズと M8X シリーズにおいて、ダウンロード時に、選択した機種名と接続している変換器が一致しているかどうかのチェック機能を追加しました。
- タグ名の未記述での設定が可能になりました。
- タグ名に日本語を設定できてしまう不具合がありました。
  ⇒ 半角英数字以外の文字を設定できないよう修正しました。
- I/O チェック画面で、モニタリング中の設定値の変更はできないように修正しました。

1.3.12. V04.04 での変更点

- M2XUM において、Modbus のノードアドレスを HEX の値で設定するようになりました。
- JFTS1,JFTS2 の各 Item が正しく表示されない不具合を修正しました。

1.3.13. V04.05 での変更点

- M2XPA,M2XPA2 のサポートを新規追加しました。これらの機種サポートで追加した JXCON の機能と操作については、６章の“V04.05 でのサポート機能”にて述べています。
- シリアルポート COM1～COM4 をサポートするようになりました。

1.3.14. V05.01 での変更点

- M8XV2,M8XT2,M8XR2,M8XM2 のサポートを新規追加しました。これらの機種サポートで追加した JXCON の機能と操作については、７章の“V05.01 でのサポート機能”にて述べています。
- Windows XP に対応しました。

1.3.15. V06.01 での変更点

- M2XT2 のサポートを新規追加しました。
- M8XV1,M8XT1,M8XR1,M8XM1,M8XV3,M8XT3,M8XR3,M8XM3 の機種名を追加しました。
- M8XT2 での TC TBL,M8XR2 での RTD TBL の設定異常、温度単位（deg F）変更時のレンジ異常を修正しました。
- M8XT2 での CJM データ表示単位異常を修正しました。

1.3.16. V06.02 での変更点

- JV,JFX,JFT1,JFT2,JFT3,JFT4,JFT5,JFT6 でのスケーリング 0%値/100%値(Item14/Item15)に負の値を設定できない不具合を修正しました。

1.3.17. V07.01 での変更点

- M2XRP2 のサポートを新規追加しました。この機種のサポートで追加した JXCON の機能と操作については、８章の“V07.01 でのサポート機能”にて述べています。
- 全ての変換器において、データファイルのテーブル（リニアライザ、TC、RTD）の値に単位をつけて読み込んだ場合でも、設定値チェックやダウンロードができるようになりました。

1.3.18. V07.02 での変更点

- V04.05 以降の JXCON で JDL の操作をすると、ダウンロードでデータ照合エラーになる不具合を修正しました。

1.3.19. V07.03 での変更点

- JT,JR,JDL で、スケーリング 0%値/100%値(Item14/Item15)にデフォルト値を設定し、温度単位(Item21)を“K”(ケルビン)に変更してダウンロードすると、データ照合エラーになる不具合がありました。
  ⇒ 単位変更による値変換を設定値の範囲内になるように修正し、正しくダウンロードできるようになりました。

1.3.20. V08.05 での変更点

- JB2, M2XV2, M2XF2, M2XR2, M2XM2 のサポートを新規追加しました。
- M2XRP2 で、入力周波数レンジ 0 to 1Hz の場合、入力ゼロ・スパン周波数を最小スパンで設定

できない不具合を修正しました。

1.3.21. V09.01 での変更点

・ M2XPA3 のサポートを新規追加しました。

1.3.22. V09.02 での変更点

・M8XV2、M8XT2、M8XR2、M8XM2 からアップロードを行うと、入力の種類（Item10）の項目に誤った表示が出る場合がある不具合を修正しました。
・M8XT2、M8XR2 に設定を正しくダウンロードできない場合がある不具合を修正しました。

1.3.23. V10.01 での変更点

・JPA2、JPQ2、JRP2、JRQ2、JPR2、JPS3、JFR2、JTY2 のサポートを新規追加しました。
・JB、JB2 で、Item21 の “Track back” は誤りで正しく “Trace back” に修正しました。

1.3.24. V11.01 での変更点

・JB2／A のサポートを新規追加しました。

1.3.25. V11.02 での変更点

・JF の入力開平機能（Item11）が、正常に書込み、読出しできない不具合を修正しました。

1.3.26. V12.01 での変更点

・JAPD2、JARP2 のサポートを新規追加しました。

1.3.27. V12.08 での変更点

・JPA、JS、JDL、M2XU、M2XUM、M2XPA、M2XPA2、M2XRP2、M8XV2、M8XT2、M8XR2、M8XM2 において、リニアライズ設定をした上で「ファイルに保存」を行い、その後「ファイルを開く」で保存したファイルを開いてもリニアライズ設定が読み出されない不具合を修正しました。

1.3.28. V12.09 での変更点

・WJPAD2 のサポートを新規追加しました。
・JUA において、警報値単位（Item38､39）を工業単位にして、警報値設定（Item26､29）、警報ヒステリシス幅（Item27､30）を設定した上で「ファイルに保存」を行い、その後「ファイルを開く」で保存したファイルを開いたときに警報値設定（Item26､29）、警報ヒステリシス幅（Item27､30）の値が変わってしまう不具合を修正しました。
・M2XU、M2XUM において、設定値が正しいにもかかわらずダウンロードすると、「空白の項目があります」というメッセージが表示される不具合を修正しました。
・Windows7（32bit､64bit）、Windows8（32bit､64bit）に対応しました。

1.4. 適用機種

JXCON プログラム(Ver 12.XX)がサポートする適応機種を表 1.1、表 1.2、表 1.3 に示します。
適用機種は、製品の追加等により、予告なく変更されることがあります。

表 1.1　ＪＸ変換器シリーズ適用形式

機種	シリーズ										
	M-UNIT	M-RACK	F-UNIT	H-UNIT	H-RACK	10-RACK	11-RACK	18-RACK	18K-RACK	W-UNIT	W-RACK
直流入力変換器	JV	7JV	FJV	HJV	GJV	10JV	11JV	18JV	18KJV	WJV	VJV
カップル変換器	JT	7JT	FJT	HJT	GJT	10JT	11JT	18JT	18KJT	WJT	VJT
測温抵抗体変換器	JR	7JR	FJR	HJR	GJR	10JR	11JR	18JR	18KJR	WJR	VJR
4 線式測温抵抗体変換器	-	-	-	-	-	10JRE	-	-	-	-	-
ポテンショメータ変換器	JM	7JM	FJM	HJM	GJM	10JM	11JM	18JM	18KJM	WJM	VJM
リニアライザ	JFX	7JFX	FJFX	HJFX	GJFX	10JFX	11JFX	18JFX	-	WJFX	VJFX
リニアライザ（100 折点）	JFX1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
デジタル式演算変換器（2 入力形）	JF	7JF	FJF	HJF	GJF	10JF	11JF	18JF		WJF	VJF
デジタル式演算変換器（3 入力形）	JFK	7JFK					11JFK			WJFK	VJFK
パルスアナログ変換器	JPA	7JPA	FJPA	HJPA	GJPA	10JPA	11JPA	18JPA	18KJPA	WJPA	VJPA
セルシン変換器	JS	7JS								WJS	VJS
開閉演算器								18JN			
ディストリビュータ（開平付）								18JDN	18KJDN		
ディストリビュータ	JDL	7JDL	FJDL	HJDL	GJDL	10JDL	11JDL	18JDL	18KJDL		
移動平均フィルタ（8 点）	JFT1	7JFT1	FJFT1	HJFT1	GJFT1	10JFT1	11JFT1	18JFT1	-	WJFT1	VJFT1
移動平均フィルタ（100 点）	JFTS1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無駄時間フィルタ（8 点）	JFT2	7JFT2	FJFT2	HJFT2	GJFT2	10JFT2	11JFT2	18JFT2	-	WJFT2	VJFT2
無駄時間フィルタ（100 点）	JFTS2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
一次遅れフィルタ	JFT3	7JFT3	FJFT3	HJFT3	GJFT3	10JFT3	11JFT3	18JFT3	-	WJFT3	VJFT3
進みフィルタ	JFT4	7JFT4	FJFT4	HJFT4	GJFT4	10JFT4	11JFT4	18JFT4	-	WJFT4	VJFT4
等速応答フィルタ	JFT5	7JFT5	FJFT5	HJFT5	GJFT5	10JFT5	11JFT5	18JFT5	-	WJFT5	VJFT5
多数決フィルタ	JFT6	7JFT6	FJFT6	FJFT6	GJFT6	10JFT6	11JFT6	18JFT6	-	WJFT6	VJFT6
アナログバックアップ	JB	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アナログバックアップ	JB2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
パルスアナログ変換器	JPAD	-	-	-	-	-	-	-	-	WJPAD	-
パルス積算アナログ変換器	JPQD	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ロータリエンコーダ速度変換器	JRPD	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ロータリエンコーダ位置変換器	JRQD	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アナログ 2 相パルス変換器	JARP	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アナログパルス変換器	JAPD	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
パルスレート変換器	JPRD	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
パルス加算器	JPSM	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
周波数レート変換器	JFRD	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ユニバーサル変換器	JUA	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
パルスアナログ変換器	JPA2	-	-	-	-	-	-	-	-	WJPAD2	-
パルス積算アナログ変換器	JPQ2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ロータリエンコーダ速度変換器	JRP2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ロータリエンコーダ位置変換器	JRQ2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
パルスレート変換器	JPR2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
パルス加算器	JPS3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
周波数レート変換器	JFR2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
デューティパルスアナログ変換器	JTY2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アナログパルス変換器	JAPD2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アナログ 2 相パルス変換器	JARP2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

表 1.2　ＰＣスペック形コンパクト変換器みにまるシリーズ適用形式

機種	形式
直流入力変換器	M2XV,M2XV2
カップル変換器	M2XT, M2XT2
測温抵抗体変換器	M2XR, M2XR2
ポテンショメータ変換器	M2XM, M2XM2
リニアライザ	M2XF, M2XF2
ユニバーサル入力変換器	M2XU
ユニバーサル入力変換器（Modbus 付）	M2XUM
パルスアナログ変換器	M2XPA, M2XPA2, M2XPA3
ロータリエンコーダ速度変換器	M2XRP2

表 1.3　ＰＣスペック形絶縁２出力超小型信号変換器ピコマルシリーズ適用形式

機種	形式
直流入力変換器（2 出力）	M8XV, M8XV1,M8XV2,M8XV3
カップル変換器（2 出力）	M8XT, M8XT1,M8XT2,M8XT3
測温抵抗体変換器（2 出力）	M8XR, M8XR1,M8XR2,M8XR3
ポテンショメータ変換器（2 出力）	M8XM, M8XM1,M8XM2,M8XM3

2. JXCON を使うための準備

2.1. JXCON のインストール

① Windows を起動します。
② JXCON のセットアップ CD を CD-ROM ドライブに挿入します。
→自動的に下のようなインストール画面が表示されます。

注 インストール画面が表示されない時は、[マイコンピュータ]で CD-ROM がセットされたドライブを開き、[JXCON]アイコンをダブルクリックして下さい。インストール画面が表示されます。

③ 日本語版 JXCON をインストールする場合は＜Japanese＞ボタンをクリックします。
英語版 JXCON をインストールする場合は＜English＞ボタンをクリックします。
→インストールプログラム（Setup.exe）が起動し，インストールが始まります。
以降は、画面に表示されるメッセージにしたがって操作してください。

注１：プログラムを再インストールする場合には、２．２.項で説明する JXCON のアンインストールを行ってからインストールしてください。

2.2. JXCON のアンインストール

Windows 2000､XP の場合
① Windows の＜スタート＞ボタンをクリックして、［コントロールパネル］を実行します。
→コントロールパネルが表示されます。
② ［プログラムの追加と削除］をクリックします。
→［プログラムの追加と削除］が表示されます。
③ 現在インストールされているプログラムの一覧から［JXCON］を選択します。
④ ［変更と削除］ボタンをクリックします。
⑤ ［ファイル削除の確認］ダイアログが表示されるので、［OK］ボタンをクリックします。
⑥ メッセージにしたがって、[削除]オプションを選択し[次へ]ボタンをクリックします。
→JXCON を関連するファイルが削除されます。

Windows 7､8 の場合

① Windows7 場合、<スタート>ボタンをクリックして、[コントロールパネル]を実行します。
→コントロールパネルが表示されます。
Windows8 場合、Windows のデスクトップに移動し、[Win]キー+[X]キーを選択し、［コントロールパネル］を実行します。
→コントロールパネルが表示されます。

② ［プログラムと機能］をクリックします。
→［プログラムのアンインストールまたは変更］が表示されます。

③ 現在インストールされているプログラムの一覧から［JXCON］を選択します。

④ ［アンインストールと変更］ボタンをクリックします。

⑤ ［ファイル削除の確認］ダイアログが表示されるので、［OK］ボタンをクリックします。

⑥ メッセージにしたがって、[削除]オプションを選択し[次へ]ボタンをクリックします。
→JXCON を関連するファイルが削除されます。

2.3. JXCON の起動と終了

（本章で示す画面／ウィンドウはイメージを示すものです。バージョンアップにより細部が変更されることがあります）

2.3.1. JXCON の起動

Windows 2000、XP の場合
<スタートメニュー>－<プログラム>－<JXCON>を選択します。
Windows 7 の場合
<スタートメニュー>－<すべてのプログラム>－<JXCON>を選択します。
Windows 8 の場合
<スタート画面>－<JXCON>を選択します。
JXCON が起動されると次のような画面が表示されます。

※注：起動時は「機種名」,「ﾃﾞｨﾚｸﾄﾘ名」を除くすべての欄は空白になります。

2.3.2. JXCON の終了

JXCON は下記のどの方法でも終了することができます。

1）JXCON ウィンドウの右下にある<終了>ボタンを押す。

2）JXCON ウィンドウの右上にある閉じるボタン×をクリックする。

3. JXCON の使い方

（本章で示す画面／ウィンドウはイメージを示すものです。バージョンアップにより細部が変更されることがあります）

3.1. 変換器のパラメータをパソコン上に読み込む（アップロード）

1）変換器とパソコンが正しく接続されていることを確認します。
2）JXCON を起動します。起動画面が表示されます。
3）変換器の機種名を，ファイル画面の機種名表示欄より選択します。
4）選択した機種名が接続した変換器と一致していること，変換器の接続状態が正しいこと、などを確認します。
5）画面上の＜アップロード＞ボタンを押すと，確認のためのメッセージボックスがいくつか現れます。画面の指示に従って＜はい＞ボタンを押すとアップロードが開始されます。
6）アップロードが完了すると，完了を表示するメッセージボックスが表示されます。
7）＜OK＞ボタンを押し，アップロードを終了します。

アップロードした情報をファイルに保存したい場合は 3.2.項へ，他の変換器にコピーしたい場合は 3.6.項に進んでください。

3.2. 変換器のパラメータをファイルに保存する（ファイルに保存）

1）3.1.項に示した手順で変換器からパラメータをアップロードするか，3.3.項に示す手順でファイルから変換器パラメータを読み込むか，あるいは 3.4.項に示す手順で変換器パラメータを作成・変更するか，いずれかの操作をおこなってください。
　ファイルに保存する前に，「作成者」「メモ」の欄内に適当な文字列を入力しておくと，後日保存したファイルの中身を識別するのに便利です。（「作成者」「メモ」に書かれた内容は，変換器に設定されたパラメータには影響を与えません）
　「タグ名」の欄内には文字列を指定しておいてください。「タグ名」欄が空白の時はダウンロードができないことがあります。
2）画面上の＜ファイルに保存＞ボタンを押すと，ファイル名を指定するためのダイアログボックスが表示されます。保存先のフォルダはデフォルトでは “JXCON”フォルダ中の“data”フォルダになっています。
　変換器パラメータのデータは，この“data”フォルダに保存することもできますし，フロッピーなどの任意の場所を選択して保存することもできます。
（ただし，“JXCON”フォルダ中の“system”フォルダには保存しないでください。）

***注意：“system”フォルダは，JXCON のシステムを制御する情報を持ったファイルの集合体です。“system”フォルダ及び“system”フォルダのファイルを変更・移動・削除することは絶対にしないでください。**

3）保存先のディレクトリを選択し，“ファイル名(N):” の欄に適当なファイル名を書き込みます。
保存先のディレクトリ，ファイル名が正しいことを画面上で確認した後＜保存(S)＞ボタンを押すと変換器パラメータがファイルに保存されます。

4）変換器パラメータがファイルに保存されると，保存終了を示すメッセージボックスが表示されます。＜OK＞ボタンを押して終了します。

3.3. ファイルに保存された変換器パラメータを読み出す（ファイルを開く）

1）変換器とパソコンが正しく接続されていることを確認します。
2）JXCON を起動します。
3）変換器の機種名を，ファイル画面の機種名表示欄より選択します。
4）画面上の＜ファイルを開く＞ボタンを押すと，ファイル名を指定するためのダイアログボックスが表示されます。参照先のフォルダはデフォルトでは “JXCON”フォルダ中の“data”フォルダになっています。
読み出したいファイルのディレクトリ，ファイル名が正しく設定されていることを画面上で確認した後，＜開く(O)＞ボタンを押すと変換器パラメータが指定したファイルから読みだされます。ファイルから読み出されたデータが，画面上に表示されます。
5）読み出した情報をファイルに保存したい場合は 3.2.項へ，変更したい場合は 3.4.項へ，他の変換器にコピーしたい場合は 3.6.項に進んでください。

3.4. 変換器パラメータの作成・変更

1）変換器の機種名を，ファイル画面の機種名表示欄より選択します。
2）目的の項目をマウスでクリックし，値をキーボードより入力します。（設定・変更不可の項目はハッチングまたは半透明で表示しています。）項目が選択項目の場合は，マウスで項目を選択します。
3）℃→F° や、%→工業単位など、単位を初期値から変更する場合は、先に単位を決定してから値を入力するようにしてください。
4）入力したデータが正しい範囲内にあるか確認するには＜設定値チェック＞ボタンを押して下さい。
5）＜設定値チェック＞の結果誤りが検出されたときはその項目の値を修正してください。誤りが検出された項目は背景色が変更されて表示されています。

＊注：値を入力あるいは変更した時点では，設定値のチェックはなされません。再度＜設定値チェック＞ボタンを押して、設定値が正しいか否かをチェックしてください。

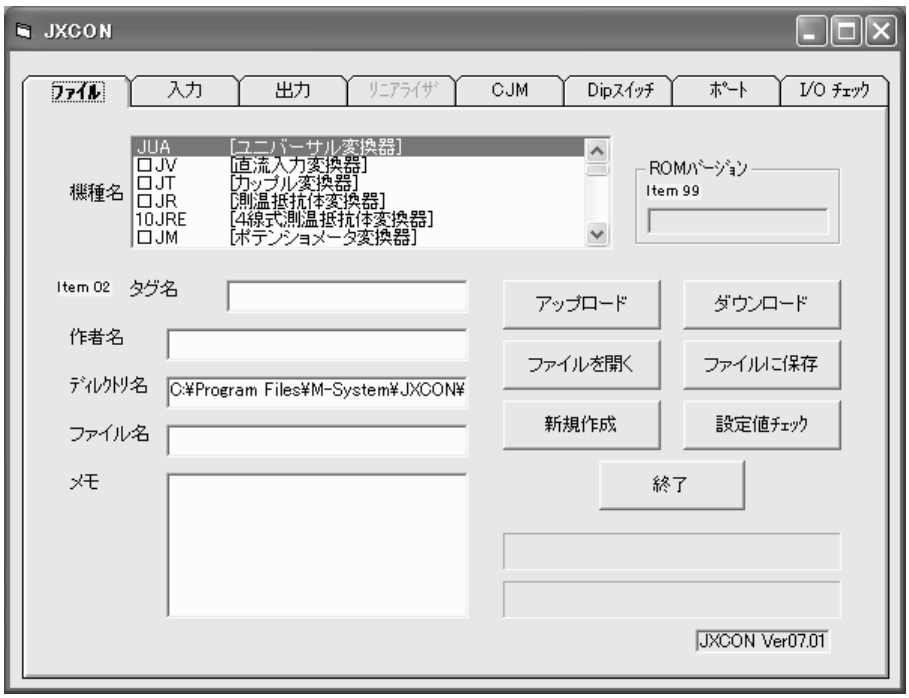
3.5. 設定値チェックボタンの使い方

1）設定値チェックボタンを押すと，JXCON 画面上の変換器パラメータが設定可能範囲内にあるかを確認することができます。範囲外の値が設定されている項目は，その背景色が変更されて表示されます。
2）背景色が変更されている全項目の値を適切な値に変更して下さい。

3.6. 変換器のパラメータを変換器に書き込む（ダウンロード）

1）3.1.項に示した手順で変換器からパラメータをアップロードするか，3.3.項に示す手順でファイルから変換器パラメータを読み込むか，あるいは 3.4.項に示した手順で変換器パラメータを作成・変更するか，いずれかの操作をおこなってください。
2）画面上の＜ダウンロード＞ボタンを押すと，接続された変換器の確認を要求するメッセージボックスが表示されます。
3）変換器が正しく接続されていることを確認した後＜OK＞ボタンを押すと、まず設定値チェックが自動的になされます。設定値に問題がない場合、ダウンロードが開始されます。設定値に問題があった場合ダウンロード操作を中止します。設定値に問題がある項目は、その背景色が変更されていますので、その項目を正しい設定値にした後、再度ダウンロードしてください。ダウンロード中は，進行状況を示すバーグラフが現れます。
4）ダウンロード中、「ダウンロードデータ照合エラー」というメッセージボックスが表示された場合は、小数桁が多い、タグ設定が半角カナになっているなど、正しい設定になっていない可能性があります。設定を見直して再度ダウンロードを行ってください。
5）ダウンロードが完了すると，終了を表示するメッセージボックスが表示されます。
6）＜OK＞ボタンを押し，ダウンロードを終了します。

4. JXCON の画面と操作



4.1. 画面構成

JXCON の画面は複数のページから構成されています。設定項目がその機能により各ページに分類されています。画面に含まれるページは選択された機種および項目の設定値により変わります。

画面に含まれるページとその主な機能は次の通りです。

●全機種共通のページ

「ﾌｧｲﾙ」　：機種・ファイル名の設定，コマンドボタンが配置されています。
「入力」　：入力に関するパラメータを設定・表示します。機種により内容は異なります。
「出力」　：出力に関するパラメータを設定・表示します。機種により内容は異なります。
「ﾎﾟｰﾄ」　：使用する通信ポートを選択できます。全機種共通の内容です。
「I/O ﾁｪｯｸ」　：模擬出力を設定・表示することができます。また，入力値を一定周期で繰り返し表示することができます。

●機種により使われることがあるページ

「ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ」　：リニアライズテーブルの設定・表示ができます。リニアライズ機能を持つ機種でリニアライズ有りを選択したときに表示されます。
「TC TBL」　：TC テーブルの設定・表示ができます。入力タイプで User'TC を選択したときに表示されます。
「RTD TBL」　：RTD テーブルの設定・表示ができます。入力タイプで User'RTD を選択したときに表示されます。
「CJM」　：JT 以外の熱電対入力変換器に使われる機能です。CJM を付け替えたときに補正基準値を設定します。
「DIP ｽｲｯﾁ」　：JUA のみに使われる機能です。変換器の DIP スイッチの設定を表示します。
「ﾌｨﾙﾀ」　：使用するフィルタの種類・定数を設定・表示します。フィルタ機能を持つ機種を選択したときに表示されます。
「Modbus」　：Modbus 通信のプロトコルを設定・表示します。Modbus 通信機能を持つ機種を選択したときに表示されます。
「警報」　：警報出力の設定・表示ができます。

4.2. 各ページの構成と機能

JXCON の画面は複数のページから構成されています。設定項目がその機能により各ページに分類されています。画面に含まれるページは選択された機種および項目の設定値により変わります。

この節では，全機種に共通である「ﾌｧｲﾙ」・「ﾎﾟｰﾄ」のページの説明をします。その他のページについては変換器の機種ごとに 4.3.項に述べます。

4.2.1. 「ﾌｧｲﾙ」ページの設定項目とコマンドボタン

（「ﾌｧｲﾙ」ページは全機種共通です。）

機種名　　：リストボックス右に付いているボタンをクリックし，変換器の機種名を選択します。
タグ名　　：お客様が任意に指定できる文字列です。全ての機種名で表示されます。半角のアルファベット（大文字）または数字を１０文字以内で指定して下さい。
作者名　　：このデータの作成者名としてお使い下さい。
ﾃﾞｨﾚｸﾄﾘ名：パソコンから読み出したファイルのディレクトリ名が表示されます。
ファイル名：パソコンから読み出したファイルのファイル名が表示されます。
メモ　　：お客様が任意に指定できる文字列です。
ROM ﾊﾞｰｼﾞｮﾝ：接続されている変換器に実装されている ROM のバージョンを表示します。
（「作者名」「メモ」に書かれた内容は，変換器に設定されたパラメータには影響を与えません）

<ｱｯﾌﾟﾛｰﾄﾞ>ボタン　：アップロードを開始します。(注)
<ﾀﾞｳﾝﾛｰﾄﾞ>ボタン　：ダウンロードを開始します。(注)
<ファイルを開く>ボタン：指定したファイルを読み出しその内容を表示します。
<ファイルに保存>ボタン：画面上に作成された設定内容をファイル名を付けて保存します。
<新規作成>ボタン　　：画面に表示されている変換器パラメータを消去します。
<設定値ﾁｪｯｸ>ボタン　　：画面に表示されている変換器パラメータが，測定範囲内に設定されているかチェックします。
<終了>ボタン　　：JXCON を終了します。

(注)「ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ」ページに「読み出し」／「書き込み」ボタンがある機種については、リニアライザデータ以外のデータのみアップロード、ダウンロードを行います。

4.2.2. 「ﾎﾟｰﾄ」ページの機能

このページには<COM1>，<COM2>，<COM3>，<COM4>のボタンが用意されています。使用するパソコンの COM ポートの番号を選択してください。

4.3. 変換器機種ごとの画面構成と機能

JXCON の画面は複数のページから構成されています。設定項目がその機能により各ページに分類されています。画面に含まれるページは選択された機種および項目の設定値により変わります。

画面に含まれるページとその主な機能は次の通りです。

4.3.1. ユニバーサル変換器（JUA）の画面構成と機能

ページ	項目の名前	説明	PU-2Aとの対応	
			Group	Item
ファイル		4.2.1項 を参照してください		
入力	入力の種類	右ボタンをクリックし、項目から選択します。	01	10
	ｽｹｰﾘﾝｸﾞ 0%値	実量で 0% 値を入力・表示します。		14
	ｽｹｰﾘﾝｸﾞ 100%値	実量で 100% 値を入力・表示します。		15
	温度単位	オプションボタンをクリックし、選択します。		21
	ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ			23
	ﾊﾞｰﾝｱｳﾄ			24
出力	DC出力の種類	右ボタンをクリックし、項目から選択します。	01	11
	DC出力 0%値設定	実量で 0% 値を入力・表示します。		12
	DC出力 100%値設定	実量で 100% 値を入力・表示します。		13
	ｾﾞﾛ微調整	単位：% 小数点以下２桁まで入力可。		19
	ｽﾊﾟﾝ微調整			20
	第一警報の有無	オプションボタンをクリックし、選択します。		25
	第一警報設定値単位	オプションボタンをクリックし、選択します。		38
	第一警報値設定	実量または%で 設定。設定可能範囲：-15～115 (%)		26
	第一警報ﾋｽﾃﾘｼｽ幅	実量または%で 設定。設定可能範囲：0～100 (%)		27
	第一警報出力ON遅延	単位：秒 設定可能範囲：0～60秒		80
	第一警報電源ONタイマ	単位：秒 設定可能範囲：2～60秒		82
	第一警報出力特性	オプションボタンをクリックし、選択します。		84
	第二警報の有無	オプションボタンをクリックし、選択します。		28
	第二警報設定値単位	オプションボタンをクリックし、選択します。		39
	第二警報値設定	実量または%で 設定。設定可能範囲：-15～115 (%)		29
	第二警報ﾋｽﾃﾘｼｽ幅	実量または%で 設定。設定可能範囲：0～100 (%)		30
	第二警報出力ON遅延	単位：秒 設定可能範囲：0～60秒		81
	第二警報電源ONタイマ	単位：秒 設定可能範囲：2～60秒		83
	第二警報出力特性	オプションボタンをクリックし、選択します。		85
	入出力の極性	オプションボタンをクリックし、選択します。		31
ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ	（100点ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ）	100点のデータを入力・表示します。カンマ区切りのファイル(*.csv)を読み込むことも可。	02	00～99
			03	00～99
CJM	摂氏温度	CJMの温度補正値を変更します。CJMを付け替えた場合、新しいCJMに添付されているデータを入力します。	01	34
	電圧値			35
Dipｽｲｯﾁ		入力の種類・DC出力の種類に対応するDipｽｲｯﾁを表示します。設定したDipｽｲｯﾁが正しいか、確認することができます。		
ﾎﾟｰﾄ		4.2.2項 を参照してください		
I/O ﾁｪｯｸ	模擬出力 %表示		01	
	設定	模擬的に出力させたい値を入力します。		03
	表示	変換器に設定された値を表示します。		
	出力 温度表示	表示のみ可能です。		04
	入力 %表示	表示のみ可能です。		05
	入力 実量表示	表示のみ可能です。		06
	冷接点温度表示	表示のみ可能です。		07

4.3.2. スペックソフト形変換器の構成と機能（その１）

ページ	項目の名前	説明	PU-2Aとの対応 Group	PU-2Aとの対応 Item	ｺﾝﾄﾛｰﾙの種類
入力	入力の種類	*1)	01	10	ｺﾝﾎﾞ ﾎﾞｯｸｽ
	折れ線ﾃｰﾌﾞﾙの有無	*2)			ｵﾌﾟｼｮﾝ ﾎﾞﾀﾝ
	測定ﾚﾝｼﾞ設定	*1)		11	ｺﾝﾎﾞ ﾎﾞｯｸｽ
	ﾘﾆｱﾗｲｽﾞ機能	*2)			ｵﾌﾟｼｮﾝ ﾎﾞﾀﾝ
	入力開平機能の有無	*2)			
	ﾄﾞﾛｯﾌﾟｱｳﾄ設定	単位：%　設定可能範囲：0.00～100.00		13	ﾃｷｽﾄ ﾎﾞｯｸｽ
	ｽｹｰﾘﾝｸﾞ 0%値	実量で 0% 値を入力・表示します。		14	
	角度ｵﾌｾｯﾄ	実量で角度ｵﾌｾｯﾄを入力・表示します。			
	ｽｹｰﾘﾝｸﾞ 100%値	実量で 100% 値を入力・表示します。		15	
	角度ﾚﾝｼﾞ	実量で角度ﾚﾝｼﾞを入力・表示します。			
	不均等ﾊﾟﾙｽ補正用	流量計 1回転に対するﾊﾟﾙｽ数を入力・表示します。		18	
	温度単位	*2)		21	ｵﾌﾟｼｮﾝ ﾎﾞﾀﾝ
	演算式のｹﾞｲﾝ K0	単位：なし　1.000=100% として設定します。			ﾃｷｽﾄ ﾎﾞｯｸｽ
	演算式のｹﾞｲﾝ K1	単位：なし　1.000=100% として設定します。		22	
	演算式のｹﾞｲﾝ K2	単位：なし　1.000=100% として設定します。		23	
	演算式のｹﾞｲﾝ K3	単位：なし　1.000=100% として設定します。		24	
	演算式のﾊﾞｲｱｽ A0	単位：%			
	演算式のﾊﾞｲｱｽ A0	単位：%		25	
	演算式のﾊﾞｲｱｽ A1	単位：%			
	演算式のﾊﾞｲｱｽ A1	単位：%		26	
	演算式のﾊﾞｲｱｽ A2	単位：%			
	演算式のﾊﾞｲｱｽ A2	単位：%		27	
	入力下限制限値 X1	単位：%　設定可能範囲：-25～+125.00			
	演算式のﾊﾞｲｱｽ A3	単位：%		28	
	入力下限制限値 X2	単位：%　設定可能範囲：-25～+125.00			
	入力下限制限値 X1	単位：%　設定可能範囲：-25～+125.00		29	
	入力上限制限値 X1	単位：%　設定可能範囲：-25～+125.00			
	入力下限制限値 X2	単位：%　設定可能範囲：-25～+125.00		30	
	入力上限制限値 X2	単位：%　設定可能範囲：-25～+125.00			
	入力下限制限値 X3	単位：%　設定可能範囲：-25～+125.00		31	
	入力上限制限値 X1	単位：%　設定可能範囲：-25～+125.00		32	
	入力上限制限値 X2	単位：%　設定可能範囲：-25～+125.00		33	
	入力上限制限値 X3	単位：%　設定可能範囲：-25～+125.00		34	
出力	ｾﾞﾛ微調整	単位：%　小数点以下２桁まで入力可。	01	19	ﾃｷｽﾄ ﾎﾞｯｸｽ
	ｽﾊﾟﾝ微調整	単位：%　小数点以下２桁まで入力可。		20	
	出力ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟ・ﾓｰﾄﾞ	*2)		21	ｵﾌﾟｼｮﾝ ﾎﾞﾀﾝ
	ｽﾗｲﾄﾞﾊﾞｯｸﾞ速度	単位：%/秒　設定可能範囲：0.00～200.00		22	ﾃｷｽﾄ ﾎﾞｯｸｽ
	UP/DOWNｷｰ応答方式	*2)		23	ｵﾌﾟｼｮﾝ ﾎﾞﾀﾝ
	UP/DOWNｷｰ応答速度	単位：%/秒　設定可能範囲：0.00～200.00		24	ﾃｷｽﾄ ﾎﾞｯｸｽ
	ｶｽｹｰﾄﾞ入力上下限警報の有無	*2)		25	ｵﾌﾟｼｮﾝ ﾎﾞﾀﾝ
	ｶｽｹｰﾄﾞ入力下限警報しきい値	単位：%　設定可能範囲：-25.00～+125.00		26	ﾃｷｽﾄ ﾎﾞｯｸｽ
	ｶｽｹｰﾄﾞ入力上限警報しきい値	単位：%　設定可能範囲：-25.00～+125.00		27	
	遡及時間	単位：秒　設定可能範囲：0.00～10.00 (s)		28	
	出力ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟ動作開始時初期値	単位：%　設定可能範囲：-25.00～+125.00		29	
	停電後ﾏﾆｭｱﾙ動作開始時初期値	単位：%　設定可能範囲：-25.00～+125.00		30	
ﾌｨﾙﾀ	ﾌｨﾙﾀの種類	*1)	01	23	ｺﾝﾎﾞ ﾎﾞｯｸｽ
	ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞ周期 H	単位：秒　設定可能範囲：0.1～100 (s)		24	ﾃｷｽﾄ ﾎﾞｯｸｽ
	ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞ数 N	単位：個　設定可能範囲は表参照		25	
	時定数 T	単位：秒　設定可能範囲は表参照		26	
	正方向制限値 CP	単位：秒　設定可能範囲：0～200.0(s)		27	
	負方向制限値 CN	単位：秒　設定可能範囲：0～200.0(s)		28	
	ﾛｰｶｯﾄ数 L	単位：個　設定可能範囲：0～7　(個)		29	
	ﾊｲｶｯﾄ数 U	単位：個　設定可能範囲：0～7　(個)		30	
ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ	(16点ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ)	*3)16点のデータを入力・表示します。	01	60～91	ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙｸﾞﾘｯﾄﾞ
	(100点ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ)	*3)100点のデータを入力・表示します。	02	00～99	ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙｸﾞﾘｯﾄﾞ
			03	00～99	

*1) 右のボタンをクリックし、項目から選択します。
*2) オプションボタンをクリックし、選択します。
3) カンマ区切りのファイル（.csv）を読み込むことも可。

付表 4-1　ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞ数・時定数　の設定可能範囲

項目の名前	JFT□						
	JFT1	JFTS1	JFT2	JFTS2	JFT3	JFT4	JFT6
ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞ数 N（個）	1～8	1～100	1～8	1～100			2～8
時定数　T　(s)			0～100.0	0.1～100.0	0～100.0	0～100.0	

付表 4-2　各項目と適用機種（その１）

ページ	項目の名前	適用機種																	PU-2Aとの対応	
		JT	JR	JV	JFT□				JFX	JM,10JRE	JFX1,JFT□		JF	JFK	JPA	JS	18JN,18JDN	JDL	JB	JB2	JB2/A	Group	Item
入力	入力の種類	○	○	○	○				○		○		○	○			○	○	○			01	10
	折れ線ﾃｰﾌﾞﾙの有無									○					○	○							
	測定ﾚﾝｼﾞ設定			○	○				○						○								11
	ﾘﾆｱﾗｲｽﾞ機能										○												
	入力開閉機能の有無												○	○									
	ﾄﾞﾛｯﾌﾟｱｳﾄ設定														○								13
	ｽｹｰﾘﾝｸﾞ 0%値	○	○	○	○				○						○			○					14
	角度ｵﾌｾｯﾄ															○							
	ｽｹｰﾘﾝｸﾞ 100%値	○	○	○	○				○						○			○					15
	角度ﾚﾝｼﾞ															○							
	不均等ﾊﾟﾙｽ補正用														○								18
	温度単位	○	○															○					21
	演算式のｹﾞｲﾝ K0												○	○									
	演算式のｹﾞｲﾝ K1												○	○									22
	演算式のｹﾞｲﾝ K2												○	○									23
	演算式のｹﾞｲﾝ K3													○									24
	演算式のﾊﾞｲｱｽ A0												○									01	
	演算式のﾊﾞｲｱｽ A0													○									25
	演算式のﾊﾞｲｱｽ A1												○										
	演算式のﾊﾞｲｱｽ A1													○									26
	演算式のﾊﾞｲｱｽ A2												○										
	演算式のﾊﾞｲｱｽ A2													○									27
	入力下限制限値 X1												○										
	演算式のﾊﾞｲｱｽ A3													○									28
	入力下限制限値 X2												○										
	入力下限制限値 X1													○									29
	入力上限制限値 X1												○										
	入力下限制限値 X2													○									30
	入力上限制限値 X2												○										
	入力下限制限値 X3													○									31
	入力上限制限値 X1													○									32
	入力上限制限値 X2													○									33
	入力上限制限値 X3													○									34
出力	ｾﾞﾛ微調整	○	○	○	○				○	○	○		○	○	○	○	○	○				01	19
	ｽﾊﾟﾝ微調整	○	○	○	○				○	○	○		○	○	○	○	○	○					20
	出力ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟ・ﾓｰﾄﾞ																		○	○	○		21
	ｽﾗｲﾄﾞﾊﾞｯｸﾞ速度																		○	○	○		22
	UP/DOWNｷｰ応答方式																		○	○	○		23
	UP/DOWNｷｰ応答速度																		○	○	○		24
	ｶｽｹｰﾄﾞ入力上下限警報の有無																		○	○	○		25
	ｶｽｹｰﾄﾞ入力下限警報しきい値																		○	○	○		26
	ｶｽｹｰﾄﾞ入力上限警報しきい値																		○	○	○		27
	遡及時間																		○	○	○		28
	出力ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟ動作開始時初期値																		○	○	○		29
	停電後ﾏﾆｭｱﾙ動作開始時初期値																		○		○		30
	電源投入時の出力値																				○		31
					□に入る文字						□に入る文字												
					1	2	3,4	5	6			S1	S2										
フィルタ	フｨﾙﾀの種類				○	○	○	○	○			○	○										23
	ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞ周期 H				○	○			○			○	○										24
	ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞ数 N				○	○			○			○	○										25
	時定数 T					○	○						○									01	26
	正方向制限値 CP							○															27
	負方向制限値 CN							○															28
	ﾛｰｶｯﾄ数 L								○														29
	ﾊｲｶｯﾄ数 U								○														30
ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ	（16点ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ）									○					○	○		○				01	60～91
	（100点ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ）											○										02	00～99
																						03	00～99
I/O チェック	模擬出力　%表示	○	○	○	○				○	○	○		○	○	○	○	○	○				01	03
	出力 温度表示	○	○															○					
	出力 角度表示															○							04
	出力 実量表示																		○	○	○		
	第１入力X1 %表示												○	○									
	入力 %表示	○	○	○	○				○	○	○				○		○	○	○	○	○		
	入力 角度表示															○							05
	第２入力X2 %表示												○	○									
	入力 実量表示	○	○	○	○				○						○			○	○	○	○		
	X座標表示															○							06
	第３入力X3 %表示													○									
	X0の規準化値表示												○										
	冷接点温度表示	○																					07
	Y座標表示															○							
	X0の規準化値表示													○									
	X1の規準化値表示												○										
	ｾﾞﾛ調整用ﾄﾘﾏ位置表示															○							08
	X2の基準化値表示												○										
	EEPROMの書き換え回数表示																				○		

4.3.3. スペックソフト形変換器の構成と機能（その２）

ﾍﾟｰｼﾞ	項目の名前	説明	PU-2Aとの対応	
			Group	Item
ﾌｧｲﾙ		4.2.1.項を参照してください。		
入力	ﾄﾞﾛｯﾌﾟｱｳﾄ時間	単位:msec 設定可能範囲:100～300000 (msec)	01	20
	ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞ時間	単位:msec 設定可能範囲:50～100000 (msec)		21
	移動平均演算の 使用ﾃﾞｰﾀ数	右ボタンをクリックし、項目から選択します。		23
	ﾊﾟﾙｽ積算値の揮発/ 不揮発性の選択			28
	ﾛｰﾀﾘｰｴﾝｺｰﾀﾞ用ﾌﾟﾘｽｹｰﾗのﾌﾟﾘｽｹｰﾙ値			29
出力 (1)	ｾﾞﾛ、ｽﾊﾟﾝ周波数に対する出力	単位:% 設定可能範囲:-15.00～115.00 (%)	01	03
	出力 0%に当たる出力周波数	単位:xHz *注 設定可能範囲:-150(kHz)～149.9(kHz)		08
	出力100%に当たる出力周波数	単位:xHz *注 設定可能範囲:100(mHz)～150(kHz)		09
	出力 0%に当たる入力周波数	単位:xHz *注 設定可能範囲:-150(kHz)～149.9(kHz)		12
	出力100%に当たる入力周波数	単位:xHz *注 設定可能範囲:100(mHz)～150(kHz)		13
	出力 0%に当たるｶｳﾝﾄ数	単位:counts 設定可能範囲:-8388607～8388606 (counts)		14
	出力100%に当たるｶｳﾝﾄ数	単位:counts 設定可能範囲:0～8388607 (counts)		15
	出力ｾﾞﾛﾊﾞｲｱｽ微調整	単位:% 設定可能範囲:85.00～115.00 (%)		18
	出力ｹﾞｲﾝ微調整	単位:% 設定可能範囲:85.00～115.00 (%)		19
出力 (2)	出力更新時間	単位:msec 設定可能範囲:50～100000 (msec)	01	22
	警報検出ﾚﾍﾞﾙのしきい値	単位:% 設定可能範囲:0～100.00 (%)		24
	警報検出ﾚﾍﾞﾙのﾋｽﾃﾘｼｽ値	単位:% 設定可能範囲:0～20.00 (%)		25
	警報のﾓｰﾄﾞ指定	オプションボタンをクリックし、選択します。		26
	ｽﾊﾟﾝｶｳﾝﾄ到着後の出力ﾓｰﾄﾞ	右ボタンをクリックし、項目から選択します。		27
	出力周波数の制限値	単位:xHz *注 設定可能範囲:2.01(Hz)～150(kHz)		33
ﾎﾟｰﾄ		4.2.2.項を参照してください。		
I/O ﾁｪｯｸ	出力 %表示	模擬出力を設定・表示します。	01	03
	入力 %表示	表示のみ可能です。		05
	入力 周波数	表示のみ可能です。		06
	入力 ﾊﾟﾙｽ数	表示のみ可能です。		07

＊注: 'xHz' の 'x' は, ' ', 'k', 'm' のいずれかに該当します。'xHz'を単位とする値のそれぞれに対して, これらの単位を選択できるコンボボックスが付いていますので, パラメータを変更する際, これらの単位も自由に変更することができます。

付表 4-3　各項目と適用機種（その２）

ﾍﾟｰｼﾞ	項目の名前	適用機種							PU-2Aとの対応	
		JPAD	JRPD	JPQD	JRQD	JARP, JAPD	JPRD, JPSM	JFRD	Group	Item
入力	ﾄﾞﾛｯﾌﾟｱｳﾄ時間	○	○				○	○	01	20
	ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞ時間	○	○				○	○		21
	移動平均演算の使用ﾃﾞｰﾀ数	○	○				○	○		23
	ﾊﾟﾙｽ積算値の揮発/ 不揮発性の選択			○	○					28
	ﾛｰﾀﾘｰｴﾝｺｰﾀﾞ用 ﾌﾟﾘｽｹｰﾗのﾌﾟﾘｽｹｰﾙ値		○		○					29
出力 (1)	ｾﾞﾛ、ｽﾊﾟﾝ周波数に対する出力	○	○	○	○	○	○	○	01	03
	出力　0%に当たる出力周波数					○	○	○		08
	出力100%に当たる出力周波数					○	○	○		09
	出力　0%に当たる入力周波数	○	○				○	○		12
	出力100%に当たる入力周波数	○	○				○	○		13
	出力　0%に当たるｶｳﾝﾄ数			○	○					14
	出力100%に当たるｶｳﾝﾄ数			○	○					15
	出力ｾﾞﾛﾊﾞｲｱｽ微調整	○	○	○	○					18
	出力ｹﾞｲﾝ微調整	○	○	○	○					19
出力 (2)	出力更新時間	○	○	○	○				01	22
	警報検出ﾚﾍﾞﾙのしきい値	○	○	○	○	○				24
	警報検出ﾚﾍﾞﾙのﾋｽﾃﾘｼｽ値	○	○	○	○	○				25
	警報のﾓｰﾄﾞ指定	○	○	○	○	○				26
	ｽﾊﾟﾝｶｳﾝﾄ到着後の出力ﾓｰﾄﾞ			○						27
	出力周波数の制限値						○			33
I/O ﾁｪｯｸ	出力 %表示	○	○	○	○				01	03
	入力 %表示	○		○			○	○		05
	入力 周波数	○		○			○	○		06
	入力 ﾊﾟﾙｽ数		○		○		○			07

4.3.4. スペックソフト形変換器の構成と機能（その３）

JPA2, WJPAD2

ﾍﾟｰｼﾞ	項目の名前	表示単位	設定範囲	設定可能小数桁	PU-2でのItem (Group:01)
ﾌｧｲﾙ	4.2.1.項参照	−	−	−	−
入力	ﾘﾆｱﾗｲｽﾞ機能(16点)	−	選択	−	10
	入力周波数ﾚﾝｼﾞ	−	選択	−	11
	ﾄﾞﾛｯﾌﾟｱｳﾄ	%	−15.00～115.00	2	13
	入力ｾﾞﾛ周波数	mHz/Hz/kHz	入力周波数ﾚﾝｼﾞにより異なる		14
			10mHzﾚﾝｼﾞ :0.000～32.000	3	
			100mHzﾚﾝｼﾞ :0.00～320.00	2	
			1Hzﾚﾝｼﾞ :0.0000～3.2000	4	
			10Hzﾚﾝｼﾞ :0.000～32.000	3	
			100Hzﾚﾝｼﾞ :0.00～320.00	2	
			1kHzﾚﾝｼﾞ :0.0000～3.2000	4	
			10kHzﾚﾝｼﾞ :0.000～32.000	3	
			100kHzﾚﾝｼﾞ :0.00～320.00	2	
	入力ｽﾊﾟﾝ周波数	mHz/Hz/kHz	入力ｾﾞﾛ周波数と同じ(ただし、入力ｾﾞﾛ周波数より大きい値)	入力ｾﾞﾛ周波数と同じ	15
	不均等ﾊﾟﾙｽ補正	−	100Hzﾚﾝｼﾞ以下:1～255 1kHzﾚﾝｼﾞ:1～25 10kHzﾚﾝｼﾞ:1～2 100kHzﾚﾝｼﾞ:1	0	18
出力	ｾﾞﾛ微調整	%	−320.00～320.00	2	19
	ｽﾊﾟﾝ微調整	%	−320.00～320.00	2	20
警報	警報ﾓｰﾄﾞ	−	選択	−	21
	警報検出ﾚﾍﾞﾙ	%	−15.00～115.00	2	22
	警報検出ﾚﾍﾞﾙのﾋｽﾃﾘｼｽ	%	0.00～20.00	2	23
	警報の電源ONﾃﾞｨﾚｲ	sec	2.0～1000.0	1	24
ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ	ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ	−	−15.00～115.00 かつ X(n)＞X(n−1) (0または空白ならOK)	2	−
ﾎﾟｰﾄ	4.2.2.項参照	−	−	−	−
I/O ﾁｪｯｸ	出力(%)／模擬出力	%	−15.00～115.00(模擬出力)	2	03
	入力(%)	%	−	−	05
	入力周波数	mHz/Hz/kHz	−	−	06

JPQ2

ﾍﾟｰｼﾞ	項目の名前	表示単位	設定範囲	設定可能小数桁	PU-2でのItem (Group:01)
ﾌｧｲﾙ	4.2.1.項参照	−	−	−	−
入力	電源OFF時のｶｳﾝﾄ数保持	−	選択	−	08
	ﾘﾆｱﾗｲｽﾞ機能(16点)	−	選択	−	10
	ｶｳﾝﾄﾓｰﾄﾞ	−	選択	−	11
	ｶｳﾝﾄｵｰﾊﾞｰﾌﾛｰ時の動作	−	選択	−	12
	入力ｾﾞﾛｶｳﾝﾄ	−	0～99999999	0	14
	入力ｽﾊﾟﾝｶｳﾝﾄ	−	0～99999999かつ 入力ｾﾞﾛｶｳﾝﾄより大きい	0	15
出力	ｾﾞﾛ微調整	%	−320.00～320.00	2	19
	ｽﾊﾟﾝ微調整	%	−320.00～320.00	2	20
警報	警報ﾓｰﾄﾞ	−	選択	−	21
	警報検出ﾚﾍﾞﾙ	%	−15.00～115.00	2	22
	警報の電源ONﾃﾞｨﾚｲ	sec	2.0～1000.0	1	24
ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ	ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ	−	−15.00～115.00 かつ X(n)＞X(n−1) (0または空白ならOK)	2	−
ﾎﾟｰﾄ	4.2.2.項参照	−	−	−	−
I/O ﾁｪｯｸ	出力(%)／模擬出力	%	−15.00～115.00(模擬出力)	2	03
	入力(%)	%	−	−	05
	入力ｶｳﾝﾄ数／ｶｳﾝﾄｾｯﾄ	−	0～99999999(ｶｳﾝﾄｾｯﾄ) (ただし、ｶｳﾝﾄﾓｰﾄﾞと入力ｽﾊﾟﾝｶｳﾝﾄの関係から、設定不可能な数値の場合は本体側ではじく)	0	06

JRP2

ﾍﾟｰｼﾞ	項目の名前	表示単位	設定範囲	設定可能小数桁	PU-2でのItem (Group:01)
ﾌｧｲﾙ	4.2.1.項参照	-	-	-	-
入力	ﾘﾆｱﾗｲｽﾞ機能(16点)	-	選択	-	10
	入力周波数ﾚﾝｼﾞ	-	選択	-	11
	ﾄﾞﾛｯﾌﾟｱｳﾄ	mHz/Hz/kHz	入力周波数ﾚﾝｼﾞにより異なる		13
			10mHzﾚﾝｼﾞ :0.000～32.000	3	
			100mHzﾚﾝｼﾞ :0.00～320.00	2	
			1Hzﾚﾝｼﾞ :0.0000～3.2000	4	
			10Hzﾚﾝｼﾞ :0.000～32.000	3	
			100Hzﾚﾝｼﾞ :0.00～320.00	2	
			1kHzﾚﾝｼﾞ :0.0000～3.2000	4	
			10kHzﾚﾝｼﾞ :0.000～32.000	3	
			100kHzﾚﾝｼﾞ :0.00～320.00	2	
	入力ｾﾞﾛ周波数	mHz/Hz/kHz	入力周波数ﾚﾝｼﾞにより異なる		14
			10mHzﾚﾝｼﾞ :-32.000～32.000	3	
			100mHzﾚﾝｼﾞ :-320.00～320.00	2	
			1Hzﾚﾝｼﾞ :-3.2000～3.2000	4	
			10Hzﾚﾝｼﾞ :-32.000～32.000	3	
			100Hzﾚﾝｼﾞ :-320.00～320.00	2	
			1kHzﾚﾝｼﾞ :-3.2000～3.2000	4	
			10kHzﾚﾝｼﾞ :-32.000～32.000	3	
			100kHzﾚﾝｼﾞ :-320.00～320.00	2	
	入力ｽﾊﾟﾝ周波数	mHz/Hz/kHz	入力ｾﾞﾛ周波数と同じ(ただし、入力ｾﾞﾛ周波数より大きい値)	入力ｾﾞﾛ周波数と同じ	15
	不均等ﾊﾟﾙｽ補正	-	入力周波数ﾚﾝｼﾞによって異なる 100Hzﾚﾝｼﾞ以下:1～255 1kHzﾚﾝｼﾞ :1～25 10kHzﾚﾝｼﾞ :1～2 100kHzﾚﾝｼﾞ :1	0	18
出力	ｾﾞﾛ微調整	%	-320.00～320.00	2	19
	ｽﾊﾟﾝ微調整	%	-320.00～320.00	2	20
警報	警報ﾓｰﾄﾞ	-	選択	-	21
	警報検出ﾚﾍﾞﾙ	%	-15.00～115.00	2	22
	警報検出ﾚﾍﾞﾙのﾋｽﾃﾘｼｽ	%	0.00～20.00	2	23
	警報の電源ONﾃﾞｨﾚｲ	sec	2.0～1000.0	1	24
ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ	ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ	-	-15.00～115.00 かつ X(n)＞X(n-1) (0または空白ならOK)	2	-
ﾎﾟｰﾄ	4.2.2.項参照	-	-	-	-
I/O ﾁｪｯｸ	出力(%)／模擬出力	%	-15.00～115.00(模擬出力)	2	03
	入力(%)	%	-	-	05
	入力周波数	mHz/Hz/kHz	-	-	06

JRQ2

ﾍﾟｰｼﾞ	項目の名前	表示単位	設定範囲	設定可能小数桁	PU-2でのItem (Group:01)
ﾌｧｲﾙ	4.2.1.項参照	-	-	-	-
入力	電源OFF時のｶｳﾝﾄ数保持	-	選択	-	08
	ﾘﾆｱﾗｲｽﾞ機能(16点)	-	選択	-	10
	ｶｳﾝﾄﾓｰﾄﾞ	-	選択	-	11
	入力ｾﾞﾛｶｳﾝﾄ	-	-99999999～99999999	0	14
	入力ｽﾊﾟﾝｶｳﾝﾄ	-	-99999999～99999999かつ 入力ｾﾞﾛｶｳﾝﾄより大きい	0	15
出力	ｾﾞﾛ微調整	%	-320.00～320.00	2	19
	ｽﾊﾟﾝ微調整	%	-320.00～320.00	2	20
警報	警報ﾓｰﾄﾞ	-	選択	-	21
	警報検出ﾚﾍﾞﾙ	%	-15.00～115.00	2	22
	警報検出ﾚﾍﾞﾙのﾋｽﾃﾘｼｽ	%	0.00～20.00	2	23
	警報の電源ONﾃﾞｨﾚｲ	sec	2.0～1000.0	1	24
ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ	ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ	-	-15.00～115.00 かつ X(n)＞X(n-1) (0または空白ならOK)	2	-
ﾎﾟｰﾄ	4.2.2.項参照	-	-	-	-
I/O ﾁｪｯｸ	出力(%)／模擬出力	%	-15.00～115.00(模擬出力)	2	03
	入力(%)	%	-	-	05
	入力ｶｳﾝﾄ数／ｶｳﾝﾄｾｯﾄ	-	-99999999～99999999(ｶｳﾝﾄｾｯﾄ)	0	06

JPR2

ﾍﾟｰｼﾞ	項目の名前	表示単位	設定範囲	設定可能小数桁	PU-2でのItem (Group:01)
ﾌｧｲﾙ	4.2.1.項参照	-	-	-	-
入力	入力設定ﾊﾟﾙｽ数	-	1～1000000	0	04
	出力設定ﾊﾟﾙｽ数	-	1～1000000	0	05
	ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞ時間	sec	0.01～100.00	2	07
	入力検出方向	-	選択	-	09
出力	最大出力周波数	Hz	0.5～100000.0	1	06
ﾎﾟｰﾄ	4.2.2.項参照	-	-	-	-
I/O ﾁｪｯｸ	入力ｶｳﾝﾄ／ｶｳﾝﾄｾｯﾄ	-	0～4294967295(ｶｳﾝﾄｾｯﾄ)	0	03

JPS3

ﾍﾟｰｼﾞ	項目の名前	表示単位	設定範囲	設定可能小数桁	PU-2でのItem (Group:01)
ﾌｧｲﾙ	4.2.1.項参照	-	-	-	-
入力	入力設定ﾊﾟﾙｽ数	-	1～1000000	0	05
	出力設定ﾊﾟﾙｽ数	-	1～1000000	0	06
	ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞ時間	sec	0.01～100.00	2	08
	入力検出方向	-	選択	-	10
出力	最大出力周波数	Hz	0.5～100000.0	1	07
ﾎﾟｰﾄ	4.2.2.項参照	-	-	-	-
I/O ﾁｪｯｸ	入力1ｶｳﾝﾄ／ｶｳﾝﾄｾｯﾄ	-	0～4294967295(ｶｳﾝﾄｾｯﾄ)	0	03
	入力2ｶｳﾝﾄ／ｶｳﾝﾄｾｯﾄ	-	0～4294967295(ｶｳﾝﾄｾｯﾄ)	0	04

JFR2

ﾍﾟｰｼﾞ	項目の名前	表示単位	設定範囲	設定可能小数桁	PU-2でのItem (Group:01)
ﾌｧｲﾙ	4.2.1.項参照	-	-	-	-
入力	入力周波数ﾚﾝｼﾞ	-	選択	-	11
	入力ｽﾊﾟﾝ周波数	mHz/Hz/kHz	入力周波数ﾚﾝｼﾞにより異なる		12
			10mHzﾚﾝｼﾞ :0.000～32.000	3	
			100mHzﾚﾝｼﾞ :0.00～320.00	2	
			1Hzﾚﾝｼﾞ :0.0000～3.2000	4	
			10Hzﾚﾝｼﾞ :0.000～32.000	3	
			100Hzﾚﾝｼﾞ :0.00～320.00	2	
			1kHzﾚﾝｼﾞ :0.0000～3.2000	4	
			10kHzﾚﾝｼﾞ :0.000～32.000	3	
			100kHzﾚﾝｼﾞ :0.00～320.00	2	
	出力周波数ﾚﾝｼﾞ	sec	選択		13
	出力ｽﾊﾟﾝ周波数	mHz/Hz/kHz	出力周波数ﾚﾝｼﾞにより異なる		14
			1mHzﾚﾝｼﾞ :0.0000～3.2000	4	
			10mHzﾚﾝｼﾞ :0.000～32.000	3	
			100mHzﾚﾝｼﾞ :0.00～320.00	2	
			1Hzﾚﾝｼﾞ :0.0000～3.2000	4	
			10Hzﾚﾝｼﾞ :0.000～32.000	3	
			100Hzﾚﾝｼﾞ :0.00～320.00	2	
			1kHzﾚﾝｼﾞ :0.0000～3.2000	4	
			10kHzﾚﾝｼﾞ :0.000～32.000	3	
	ﾄﾞﾛｯﾌﾟｱｳﾄ	mHz/Hz/kHz	入力周波数ﾚﾝｼﾞにより異なる		15
			10mHzﾚﾝｼﾞ :0.030～10.000	3	
			100mHzﾚﾝｼﾞ :0.30～100.00	2	
			1Hzﾚﾝｼﾞ :0.0030～1.0000	4	
			10Hzﾚﾝｼﾞ :0.030～10.000	3	
			100Hzﾚﾝｼﾞ :0.30～100.00	2	
			1kHzﾚﾝｼﾞ :0.0030～1.0000	4	
			10kHzﾚﾝｼﾞ :0.030～10.000	3	
			100kHzﾚﾝｼﾞ :0.30～100.00	2	
	不均等ﾊﾟﾙｽ補正	-	入力周波数ﾚﾝｼﾞによって異なる 100Hzﾚﾝｼﾞ以下:1～255 1kHzﾚﾝｼﾞ :1～25 10kHzﾚﾝｼﾞ :1～2 100kHzﾚﾝｼﾞ :1	0	18
出力	ｾﾞﾛ微調整	%	-320.00～320.00	2	19
	ｽﾊﾟﾝ微調整	%	-320.00～320.00	2	20
ﾎﾟｰﾄ	4.2.2.項参照	-	-	-	-
I/O ﾁｪｯｸ	出力(%)／模擬出力	%	-15.00～115.00(模擬出力)	2	03
	入力(%)	%	-	-	05
	入力周波数	mHz/Hz/kHz	-	-	06

JTY2

ﾍﾟｰｼﾞ	項目の名前	表示単位	設定範囲	設定可能小数桁	PU-2でのItem (Group:01)
ﾌｧｲﾙ	4.2.1.項参照	−	−	−	−
入力	移動平均回数	−	1～30かつ 上側ｶｯﾄ数＋下側ｶｯﾄ数より大きい	0	08
	上側ｶｯﾄ数	−	0～10	0	09
	下側ｶｯﾄ数	−	0～10	0	10
	ﾘﾆｱﾗｲｽﾞ機能(16点)	−	選択	−	11
	入力ｾﾞﾛ比	%	0.00～100.00または実入力での設定	2	12
	入力ｽﾊﾟﾝ比	%	0.00～100.00または実入力での設定	2	13
	入力なし検出時間	sec	0.1～100.0	1	26
	入力の論理	−	選択	−	27
出力	ｾﾞﾛ微調整	%	−320.00～320.00	2	19
	ｽﾊﾟﾝ微調整	%	−320.00～320.00	2	20
警報	警報ﾓｰﾄﾞ	−	選択	−	21
	警報検出ﾚﾍﾞﾙ	%	−15.00～115.00	2	22
	警報検出ﾚﾍﾞﾙのﾋｽﾃﾘｼｽ	%	0.00～20.00	2	23
	警報の電源ONﾃﾞｨﾚｲ	sec	2.0～1000.0	1	24
	入力なし時の警報	−	選択	−	25
ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ	ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ	−	−15.00～115.00 かつ X(n)＞X(n−1) (0または空白ならOK)	2	−
ﾎﾟｰﾄ	4.2.2.項参照	−	−	−	−
I/O ﾁｪｯｸ	出力(%)／模擬出力	%	−15.00～115.00(模擬出力)	2	03
	入力(%)	%	−	−	05
	入力ﾃﾞｭｰﾃｨ比	%	−	−	06

JAPD2

ﾍﾟｰｼﾞ	項目の名前	表示単位	設定範囲	設定可能小数桁	PU-2でのItem (Group:01)
ﾌｧｲﾙ	4.2.1.項参照	−	−	−	−
出力	出力周波数ﾚﾝｼﾞ	−	選択	−	11
	出力ｾﾞﾛ周波数	kHz/Hz/mHz	出力周波数ﾚﾝｼﾞにより異なる		12
			0～10kHz: 0.000～20.000	3	
			0～1kHz: 0.0000～2.0000	4	
			0～100Hz: 0.00～200.00	2	
			0～10Hz: 0.000～20.000	3	
			0～1Hz: 0.0000～2.0000	4	
			0～100mHz: 0.00～200.00	2	
	出力ｽﾊﾟﾝ周波数	kHz/Hz/mHz	出力ｾﾞﾛ周波数と同じ(ただし、出力ｾﾞﾛ周波数より大きい値)	出力ｾﾞﾛ周波数と同じ	13
	ｾﾞﾛ微調整	%	−5.00～5.00	2	19
	ｽﾊﾟﾝ微調整	%	95.00～105.00	2	20
警報	警報ﾓｰﾄﾞ	−	選択	−	21
	警報検出ﾚﾍﾞﾙ	%	−5.00～105.00	2	22
	警報検出ﾚﾍﾞﾙのﾋｽﾃﾘｼｽ	%	0.00～20.00	2	23
	警報の電源ONﾃﾞｨﾚｲ	sec	2.0～1000.0	1	24
ﾎﾟｰﾄ	4.2.2.項参照	−	−	−	−
I/O ﾁｪｯｸ	出力(%)／模擬出力	%	−5.00～105.00(模擬出力)	2	03
	出力周波数表示	kHz/Hz/mHz	−	−	04
	入力(%)	%	−	−	05

JARP2

ﾍﾟｰｼﾞ	項目の名前	表示単位	設定範囲	設定可能小数桁	PU-2でのItem (Group:01)
ﾌｧｲﾙ	4.2.1.項参照	-	-	-	-
出力	出力周波数ﾚﾝｼﾞ	-	選択	-	11
	出力ｾﾞﾛ周波数	kHz/Hz/mHz	出力周波数ﾚﾝｼﾞにより異なる		12
			0～10kHz: -20.000～20.000	3	
			0～1kHz: -2.0000～2.0000	4	
			0～100Hz: -200.00～200.00	2	
			0～10Hz: -20.000～20.000	3	
			0～1Hz: -2.0000～2.0000	4	
			0～100mHz: -200.00～200.00	2	
	出力ｽﾊﾟﾝ周波数	kHz/Hz/mHz	出力ｾﾞﾛ周波数と同じ(ただし、出力ｾﾞﾛ周波数より大きい値)	出力ｾﾞﾛ周波数と同じ	13
	ｾﾞﾛ微調整	%	-5.00～5.00	2	19
	ｽﾊﾟﾝ微調整	%	95.00～105.00	2	20
警報	警報ﾓｰﾄﾞ	-	選択	-	21
	警報検出ﾚﾍﾞﾙ	%	-5.00～105.00	2	22
	警報検出ﾚﾍﾞﾙのﾋｽﾃﾘｼｽ	%	0.00～20.00	2	23
	警報の電源ONﾃﾞｨﾚｲ	sec	2.0～1000.0	1	24
ﾎﾟｰﾄ	4.2.2.項参照	-	-	-	-
I/O ﾁｪｯｸ	出力(%)／模擬出力	%	-5.00～105.00(模擬出力)	2	03
	出力周波数表示	kHz/Hz/mHz	-	-	04
	入力(%)	%	-	-	05

4.3.5. ＰＣスペック形変換器の構成と機能

ページ	項目の名前	説明	PU-2Aとの対応	
			Group	Item
ファイル		4.2.1.項を参照してください。		
入力	入力の種類	右ボタンをクリックし、項目から選択します。	01	10
	ｽｹｰﾘﾝｸﾞ 0%値	実量で 0% 値を入力・表示します。		14
	ｽｹｰﾘﾝｸﾞ 100%値	実量で 100% 値を入力・表示します。		15
	温度単位	オプションボタンをクリックし、選択します。		21
	入力抵抗値	電流入力で入力抵抗を標準の１００オーム以外にする場合に設定してください。		22
	ﾘﾆｱﾗｲｽﾞ機能 (100点)	オプションボタンをクリックし、選択します。		23
	ﾊﾞｰﾝｱｳﾄ	オプションボタンをクリックし、選択します。		24
出力	DC出力の種類	右ボタンをクリックし、項目から選択します。	01	11
	0% 出力ﾚﾝｼﾞ	実量で 0% 値を入力・表示します。		12
	100% 出力ﾚﾝｼﾞ	実量で 100% 値を入力・表示します。		13
	ｾﾞﾛ微調整	単位：% 設定可能範囲：-5.00～5.00(%)		19
	ｽﾊﾟﾝ微調整	単位：% 設定可能範囲：95.00～105.00(%)		20
ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ	(100点ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ)	100点のデータを入力・表示します。カンマ区切りのファイル(*.csv)を読み込むことも可能です。設定可能範囲：2～100		
CJM	摂氏温度	CJMの温度補正値を変更します。CJMを付け替えた場合、新しいCJMに添付されているデータを入力してください。	01	34
	電圧値			35
ポート		4.2.2.項を参照してください。		
I/O ﾁｪｯｸ	模擬出力 %表示		01	03
	設定	模擬的に出力させたい値を入力します。		
	表示	変換器に設定された値を表示します。		
	出力 温度表示	表示のみ可能です。		04
	入力 %表示	表示のみ可能です。		05
	入力 実量表示	表示のみ可能です。		06
	冷接点温度表示	表示のみ可能です。		07

付表 4-4　各項目と適用機種

ページ	項目の名前	適用機種					PU-2Aとの対応	
		M2XV M2XV2 M8XV M8XV1	M2XT M2XT2 M8XT M8XT1	M2XM M2XM2 M8XM M8XM1	M2XR M2XR2 M8XR M8XR1	M2XF M2XF2	Group	Item
入力	入力の種類	○	○	○	○	○	01	10
	ｽｹｰﾘﾝｸﾞ 0%値	○	○	○	○	○		14
	ｽｹｰﾘﾝｸﾞ 100%値	○	○	○	○	○		15
	温度単位		○		○			21
	入力抵抗値	○				○		22
	ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ			○		○		23
	ﾊﾞｰﾝｱｳﾄ		○	○	○			24
出力	DC出力の種類	○	○	○	○	○	01	11
	0% 出力ﾚﾝｼﾞ	○	○	○	○	○		12
	100% 出力ﾚﾝｼﾞ	○	○	○	○	○		13
	ｾﾞﾛ微調整	○	○	○	○	○		19
	ｽﾊﾟﾝ微調整	○	○	○	○	○		20
CJM	摂氏温度		○				01	34
	電圧値		○					35
I/O ﾁｪｯｸ	模擬出力 %表示 設定 表示	○	○	○	○	○	01	03
	出力 温度表示		○		○			04
	入力 %表示	○	○	○	○	○		05
	入力 実量表示	○	○	○	○	○		06
	冷接点温度表示		○					07

4.3.6. ＰＣスペック形ユニバーサル入力変換器（M2XU,M2XUM）の構成と機能

ページ	項目の名前	説明	入力モデル			
			DC	TC	RTD	PM
ファイル		4.2.1.項を参照してください。	○	○	○	○
入力	入力モデルの種類	右ボタンをクリックし、項目から選択します。	○	○	○	○
	入力の種類	右ボタンをクリックし、項目から選択します。	○	○	○	○
	ｽｹｰﾘﾝｸﾞ 0%値	実量で 0% 値を入力・表示します。	○	○	○	○
	ｽｹｰﾘﾝｸﾞ 100%値	実量で 100% 値を入力・表示します。	○	○	○	○
	温度単位	オプションボタンをクリックし、選択します。		○	○	
	CJC SW	オプションボタンをクリックし、選択します。		○		
	ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ	オプションボタンをクリックし、選択します。	○			○
	ﾊﾞｰﾝｱｳﾄ	オプションボタンをクリックし、選択します。		○	○	○
出力	DC出力の種類	右ボタンをクリックし、項目から選択します。	○	○	○	○
	0% 出力ﾚﾝｼﾞ	実量で 0% 値を入力・表示します。	○	○	○	○
	100% 出力ﾚﾝｼﾞ	実量で 100% 値を入力・表示します。	○	○	○	○
	ｾﾞﾛ微調整	単位：％　　小数点以下２桁まで入力可。	○	○	○	○
	ｽﾊﾟﾝ微調整		○	○	○	○
ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ	（100点ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ）	100点のデータを入力・表示します。カンマ区切りのファイル(*.csv)を読み込むことも可。	○			○
TC TBL	（TC ﾃｰﾌﾞﾙ）	ユーザ定義のTCテーブルのデータを入力・表示します。カンマ区切りのファイル(*.csv)を読み込むことも可。 このページのデータのみのRead/Writeができます。		○		
RTD TBL	（RTD ﾃｰﾌﾞﾙ）	ユーザ定義のRTDテーブルのデータを入力・表示します。カンマ区切りのファイル(*.csv)を読み込むことも可。 このページのデータのみのRead/Writeができます。			○	
CJM	摂氏温度	CJMの温度補正値を変更します。CJMを付け替えた場合、新しいCJMに添付されているデータを入力してください。		○		
	電圧値			○		
MODBUS	（Modbus通信設定）	Modbus通信プロトコルの設定をします。このページのデータのみのRead/Writeができます。	○	○	○	○
ポート		4.2.2.項を参照してください。	○	○	○	○
I/O ﾁｪｯｸ	模擬出力 %表示		○	○	○	○
	設定	模擬的に出力させたい値を入力します。				
	表示	変換器に設定された値を表示します。				
	出力 温度表示	表示のみ可能です。		○	○	
	入力 %表示	表示のみ可能です。	○	○	○	○
	入力 実量表示	表示のみ可能です。	○	○	○	○
	冷接点温度表示	表示のみ可能です。		○		

4.3.7. ＰＣスペック形パルスアナログ変換器（M2XPA）の構成と機能

ページ	項目の名前	説明
ファイル		4.2.1.項を参照してください。
入力	周波数ﾚﾝｼﾞ設定	右ボタンをクリックし、項目から選択します。
	ﾄﾞﾛｯﾌﾟｱｳﾄ時間	設定可能範囲：100～100000(ms) 5ms単位で切り捨て
	ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞ時間	設定可能範囲：50～100000(ms) 5ms単位で切り捨て
	移動平均演算の使用ﾃﾞｰﾀ数	右ボタンをクリックし、項目から選択します。
	入力信号ｺｰﾄﾞ	右ボタンをクリックし、項目から選択します
	不均等ﾊﾟﾙｽ補正用	設定可能範囲：1～255
	ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ	オプションボタンをクリックし、選択します。
	入力ｺｰﾄﾞBかつ入力最大電圧6V以上	オプションボタンをクリックし、選択します。
	下限ｼｷｲ値	設定可能範囲：0～6(V) 0.05Vきざみ
	上限ｼｷｲ値	設定可能範囲：0～6(V) 0.05Vきざみ
出力	出力の種類	右ボタンをクリックし、項目から選択します。
	出力0%に当たる入力周波数	※単位：xHz 設定可能範囲：有効数字桁数4, 0～9999 小数点可
	出力100%に当たる入力周波数	※単位：xHz 設定可能範囲：有効数字桁数4, 0～9999 小数点可
	出力ｾﾞﾛﾊﾞｲｱｽ微調整	設定可能範囲：-15.00～15.00(%)
	出力ｹﾞｲﾝ微調整	設定可能範囲：85.00～115.00(%)
	ｾﾞﾛ出力設定	単位：出力単位 小数点以下３桁まで入力可。
	ｽﾊﾟﾝ出力設定	単位：出力単位 小数点以下３桁まで入力可。
ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ	（100点ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ）	100点のデータを入力・表示します。カンマ区切りのファイル(*.csv)を読み込むことも可。
ポート		4.2.2.項を参照してください。
I/O ﾁｪｯｸ	模擬出力 %表示	
	設定	模擬的に出力させたい値を入力します。
	表示	変換器に設定された値を表示します。
	入力 %表示	表示のみ可能です。
	入力 周波数	表示のみ可能です。

※ xHz' の 'x' は、' ', 'k', 'm' のいづれかに該当します。'xHz'を単位とする値のそれぞれに対して、これらの単位を選択できるコンボボックスが付いていますので、パラメータを変更する際、これらの単位も自由に変更することができます。

4.3.8. ＰＣスペック形パルスアナログ変換器（M2XPA2）の構成と機能

ページ	項目の名前	説明
ファイル		4.2.1.項を参照してください。
入力	入力ﾀｲﾌﾟ	右ボタンをクリックし、項目から選択します。
	入力周波数ﾚﾝｼﾞ	右ボタンをクリックし、項目から選択します。
	入力の0%ｽｹｰﾙ値	実量で0% 値を入力・表示します。
	入力の100%ｽｹｰﾙ値	実量で100% 値を入力・表示します。
	ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ	オプションボタンをクリックし、選択します。
	入力振幅	右ボタンをクリックし、項目から選択します。
	ｼｷｲ値	ｼｷｲ値を入力・表示します。
	入力周波数	入力周波数をﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞします。
	ｶｯﾄｱｳﾄ	設定可能範囲：0.00～100.00(%)
	ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞ時間(M2XPA2)	設定可能範囲：50～1000(ms) 5mS単位で切り捨て
	ｾﾝｻｰ用電源	右ボタンをクリックし、項目から選択します。
出力	出力ﾀｲﾌﾟ	右ボタンをクリックし、項目から選択します。
	出力の0%ｽｹｰﾙ値	実量で0% 値を入力・表示します。
	出力の100%ｽｹｰﾙ値	実量で100% 値を入力・表示します。
ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ	（100点ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ）	100点のデータを入力・表示します。 カンマ区切りのファイル(*.csv)のOpen/Saveができます。 このページのデータのみのRead/Writeができます。
	ﾃｰﾌﾞﾙｻｲｽﾞ	ﾃｰﾌﾞﾙｻｲｽﾞ値を入力・表示します。設定可能範囲：2～101
ポート		4.2.2.項を参照してください。
I/O ﾁｪｯｸ	模擬出力 %表示	
	設定	模擬的に出力させたい値を入力します。
	表示	変換器に設定された値を表示します。
	入力 %表示	表示のみ可能です。
	入力 周波数	表示のみ可能です。
	ｾﾞﾛ微調整	単位：% 設定可能範囲：-6.00～6.00(%)。
	ｽﾊﾟﾝ微調整	単位：% 設定可能範囲：94.00～106.00(%)。

4.3.9. ＰＣスペック形パルスアナログ変換器（M2XPA3）の構成と機能

ページ	項目の名前	説明
ファイル		4.2.1.項を参照してください。
入力	入力ﾀｲﾌﾟ	右ボタンをクリックし、項目から選択します。
	入力周波数ﾚﾝｼﾞ	右ボタンをクリックし、項目から選択します。
	入力振幅ﾚﾝｼﾞ	右ボタンをクリックし、項目から選択します。
	入力ｾﾞﾛ周波数	実量で0% 値を入力・表示します。
	入力ｽﾊﾟﾝ周波数	実量で100% 値を入力・表示します。
	ｶｯﾄｱｳﾄ	設定可能範囲：0.00～100.00(%)
	移動平均演算の使用ﾃﾞｰﾀ数	ﾊﾟﾙｽ分周を入力・表示します。 設定可能範囲は入力周波数ﾚﾝｼﾞの設定に準する 0～100Hz以下 -- 1～255 / 0～1kHz以下 -- 1～25 0～10kHz以下 -- 1～2 / 0～200kHz以下 -- 1 固定
	ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ機能ｽｲｯﾁ	オプションボタンをクリックし、選択します。
	検出ﾚﾍﾞﾙ	検出ﾚﾍﾞﾙ（ｼｷｲ値）を入力・表示します。 設定可能範囲：-2.000～4.000(V)
	入力周波数	入力周波数をﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞします。
	ｾﾝｻｰ用電源	右ボタンをクリックし、項目から選択します。
出力	出力ﾀｲﾌﾟ	右ボタンをクリックし、項目から選択します。
	出力0%値設定	実量で0% 値を入力・表示します。
	出力100%値設定	実量で100% 値を入力・表示します。
	出力ｾﾞﾛ微調整	単位：% 設定可能範囲：-5.00～5.00(%)。
	出力ｽﾊﾟﾝ微調整	単位：% 設定可能範囲：95.00～105.00(%)。
ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ	（100点ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ）	100点のデータを入力・表示します。 カンマ区切りのファイル(*.csv)のOpen/Saveができます。
ポート		4.2.2.項を参照してください。
I/O ﾁｪｯｸ	模擬出力 %表示	
	設定	模擬的に出力させたい値を入力します。
	表示	変換器に設定された値を表示します。
	表示	
	出力値	表示のみ可能です。
	入力%表示	表示のみ可能です。
	入力周波数	表示のみ可能です。

4.3.10. ＰＣスペック形ロータリエンコーダ速度変換器（M2XRP2）の構成と機能

ページ	項目の名前	説明
ファイル		4.2.1.項を参照してください。
入力	入力ﾀｲﾌﾟ	右ボタンをクリックし、項目から選択します。
	入力周波数ﾚﾝｼﾞ	右ボタンをクリックし、項目から選択します。
	入力振幅ﾚﾝｼﾞ	右ボタンをクリックし、項目から選択します。
	入力ｾﾞﾛ周波数	実量で0% 値を入力・表示します。
	入力ｽﾊﾟﾝ周波数	実量で100% 値を入力・表示します。
	ｶｯﾄｱｳﾄ周波数	設定可能範囲：0～32000 （表示小数桁数、単位は入力周波数ﾚﾝｼﾞの設定に準する）
	移動平均演算の使用ﾃﾞｰﾀ数	ﾊﾟﾙｽ分周を入力・表示します。 設定可能範囲は入力周波数ﾚﾝｼﾞの設定に準する 0～100Hz以下 -- 1～255 / 0～1kHz以下 -- 1～25 0～10kHz以下 -- 1～2 / 0～100kHz以下 -- 1 固定
	ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ機能ｽｲｯﾁ	オプションボタンをクリックし、選択します。
	ｼｷｲ値	ｼｷｲ値を入力・表示します。設定可能範囲：-2.000～4.000(V)。
	入力周波数	入力周波数をﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞします。
	ｾﾝｻｰ用電源	右ボタンをクリックし、項目から選択します。
	入力ﾊﾟﾙｽの種類	右ボタンをクリックし、項目から選択します。
出力	出力ﾀｲﾌﾟ	右ボタンをクリックし、項目から選択します。
	出力の0%値設定	実量で0% 値を入力・表示します。
	出力の100%値設定	実量で100% 値を入力・表示します
	出力ｾﾞﾛ微調整	単位：% 設定可能範囲：-5.00～5.00(%)。
	出力ｽﾊﾟﾝ微調整	単位：% 設定可能範囲：95.00～105.00(%)。
ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ	（16点ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ）	16点のデータを入力・表示します。 カンマ区切りのファイル(*.csv)のOpen/Saveができます。 このページのデータのみのRead/Writeができます。
ポート		4.2.2.項を参照してください。
I/O ﾁｪｯｸ	模擬出力 %表示	
	設定	模擬的に出力させたい値を入力します。
	表示	変換器に設定された値を表示します。
	出力値	表示のみ可能です。
	入力 %表示	表示のみ可能です。
	入力 周波数	表示のみ可能です。

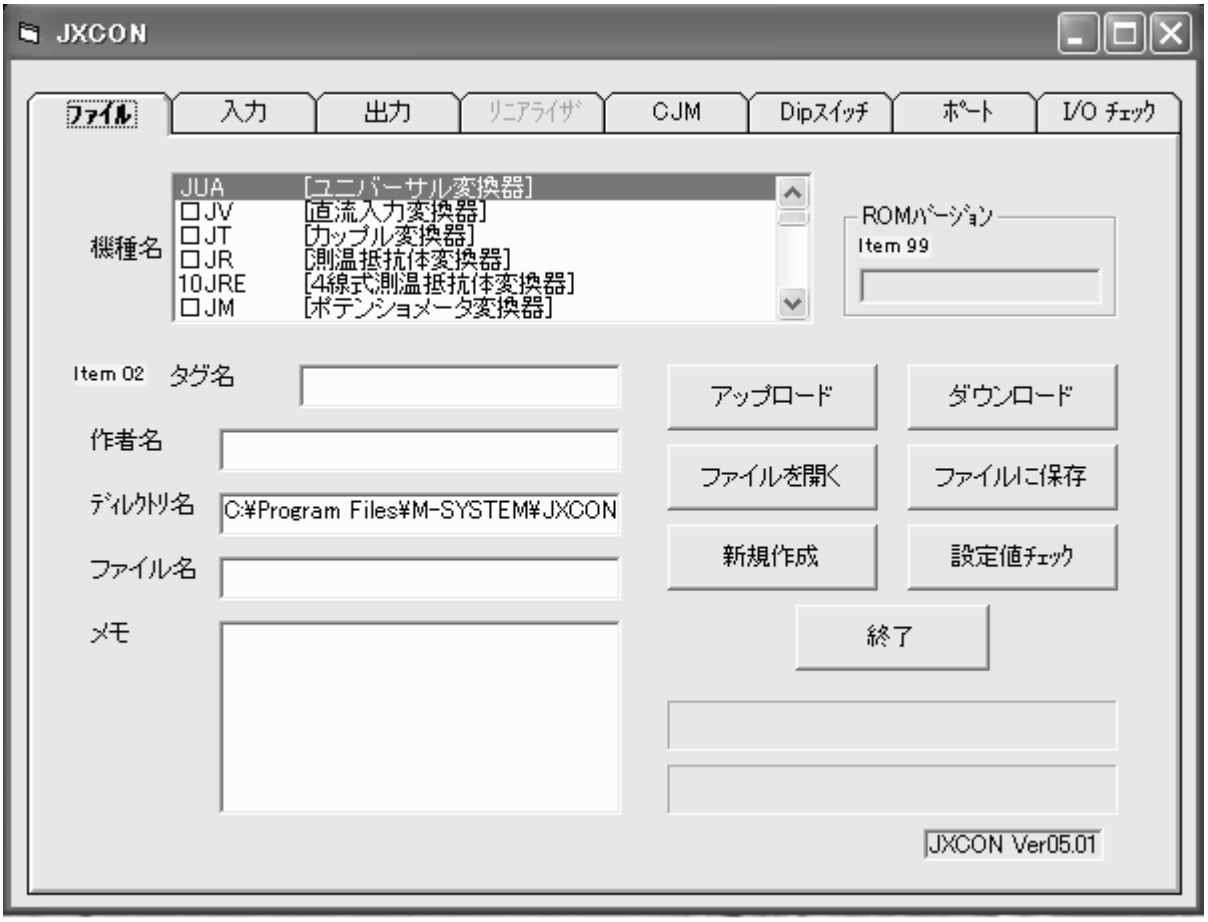
4.3.11. ＰＣスペック形変換器（M8X□2,M8X□3）の構成と機能

ページ	項目の名前	説明	適用機種			
			M8XV2 M8XV3	M8XT2 M8XT3	M8XR2 M8XR3	M8XM2 M8XM3
ファイル		4.2.1.項を参照してください。	○	○	○	○
入力	入力の種類	右ボタンをクリックし、項目から選択します。	○	○	○	○
	入力ﾚﾝｼﾞ 0%	実量で 0% 値を入力・表示します。	○	○	○	○
	入力ﾚﾝｼﾞ 100%	実量で 100% 値を入力・表示します。	○	○	○	○
	入力の属性 最小	最小ﾚﾝｼﾞ値を表示します。	○	○	○	○
	入力の属性 最大	最大ﾚﾝｼﾞ値を表示します。	○	○	○	○
	温度単位	オプションボタンをクリックし、選択します。		○	○	
	CJC SW	オプションボタンをクリックし、選択します。		○		
	ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ	オプションボタンをクリックし、選択します。	○			○
	ﾊﾞｰﾝｱｳﾄ	オプションボタンをクリックし、選択します。		○	○	○
出力	第1出力の種類	右ボタンをクリックし、項目から選択します。	○	○	○	○
	第1出力ﾚﾝｼﾞ 0%	実量で 0% 値を入力・表示します。	○	○	○	○
	第1出力ﾚﾝｼﾞ 100%	実量で 100% 値を入力・表示します。	○	○	○	○
	第1出力の属性 最小	最小ﾚﾝｼﾞ値を表示します。	○	○	○	○
	第1出力の属性 最大	最大ﾚﾝｼﾞ値を表示します。	○	○	○	○
	第2出力の種類	右ボタンをクリックし、項目から選択します。	○	○	○	○
	第2出力ﾚﾝｼﾞ 0%	実量で 0% 値を入力・表示します。	○	○	○	○
	第2出力ﾚﾝｼﾞ 100%	実量で 100% 値を入力・表示します。	○	○	○	○
	第2出力の属性 最小	最小ﾚﾝｼﾞ値を表示します。	○	○	○	○
	第2出力の属性 最大	最大ﾚﾝｼﾞ値を表示します。	○	○	○	○
ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ	（100点ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ）	100点のデータを入力・表示します。 カンマ区切りのファイル(*.csv)のOpen/Saveができます。 このページのデータのみのRead/Writeができます。	○			○
	ﾃｰﾌﾞﾙｻｲｽﾞ	ﾃｰﾌﾞﾙｻｲｽﾞ値を入力・表示します。設定可能範囲：2～101	○			○
TC TBL	（TC ﾃｰﾌﾞﾙ）	100点のデータを入力・表示します。 カンマ区切りのファイル(*.csv)のOpen/Saveができます。 このページのデータのみのRead/Writeができます。		○		
	ﾃｰﾌﾞﾙﾋﾟｯﾁ	ﾃｰﾌﾞﾙﾋﾟｯﾁを入力・表示します。設定可能範囲：1～10(deg C)		○		
	ﾃｰﾌﾞﾙ最小温度	ﾃｰﾌﾞﾙ最小温度を入力・表示します。単位：deg C		○		
	ﾃｰﾌﾞﾙｻｲｽﾞ	ﾃｰﾌﾞﾙｻｲｽﾞ値を入力・表示します。設定可能範囲：2～300		○		
RTD TBL	（RTD ﾃｰﾌﾞﾙ）	100点のデータを入力・表示します。 カンマ区切りのファイル(*.csv)のOpen/Saveができます。 このページのデータのみのRead/Writeができます。			○	
	ﾃｰﾌﾞﾙﾋﾟｯﾁ	ﾃｰﾌﾞﾙﾋﾟｯﾁを入力・表示します。設定可能範囲：1～10(deg C)			○	
	ﾃｰﾌﾞﾙ最小温度	ﾃｰﾌﾞﾙ最小温度を入力・表示します。単位：deg C			○	
	ﾃｰﾌﾞﾙｻｲｽﾞ	ﾃｰﾌﾞﾙｻｲｽﾞ値を入力・表示します。設定可能範囲：2～300			○	
CJM	摂氏温度	CJMの温度補正値を変更します。CJMを付け替えた場合、新しいCJMに添付されているデータを入力してください。		○		
	電圧値			○		
Comp.	線路抵抗値	XR2:入力を短絡して測定抵抗値が0Ωになるよう補正できます。 XM2:ﾎﾟﾃﾝｼｮﾒｰﾀを0%or100%になる位置にして、ﾎﾟｼﾞｼｮﾝが0%or100%になるように補正できます。			○	
	0% ﾎﾟｼﾞｼｮﾝ校正					○
	100% ﾎﾟｼﾞｼｮﾝ校正					○
ポート		4.2.2.項を参照してください。	○	○	○	○
I/O ﾁｪｯｸ	模擬出力 %表示					
	設定	模擬的に出力させたい値を入力します。	○	○	○	○
	表示	変換器に設定された値を表示します。				
	入力値	表示のみ可能です。	○	○	○	○
	入力 %表示	表示のみ可能です。	○	○	○	○
	入力 実量表示	表示のみ可能です。	○	○	○	○
	冷接点温度表示	表示のみ可能です。		○		
	第1出力ｾﾞﾛ点微調整	単位：% 設定可能範囲：-5.00～5.00(%)。	○	○	○	○
	第1出力ｽﾊﾟﾝ点微調整	単位：% 設定可能範囲：95.00～105.00(%)。	○	○	○	○
	第2出力ｾﾞﾛ点微調整	単位：% 設定可能範囲：-5.00～5.00(%)。	○	○	○	○
	第2出力ｽﾊﾟﾝ点微調整	単位：% 設定可能範囲：95.00～105.00(%)。	○	○	○	○

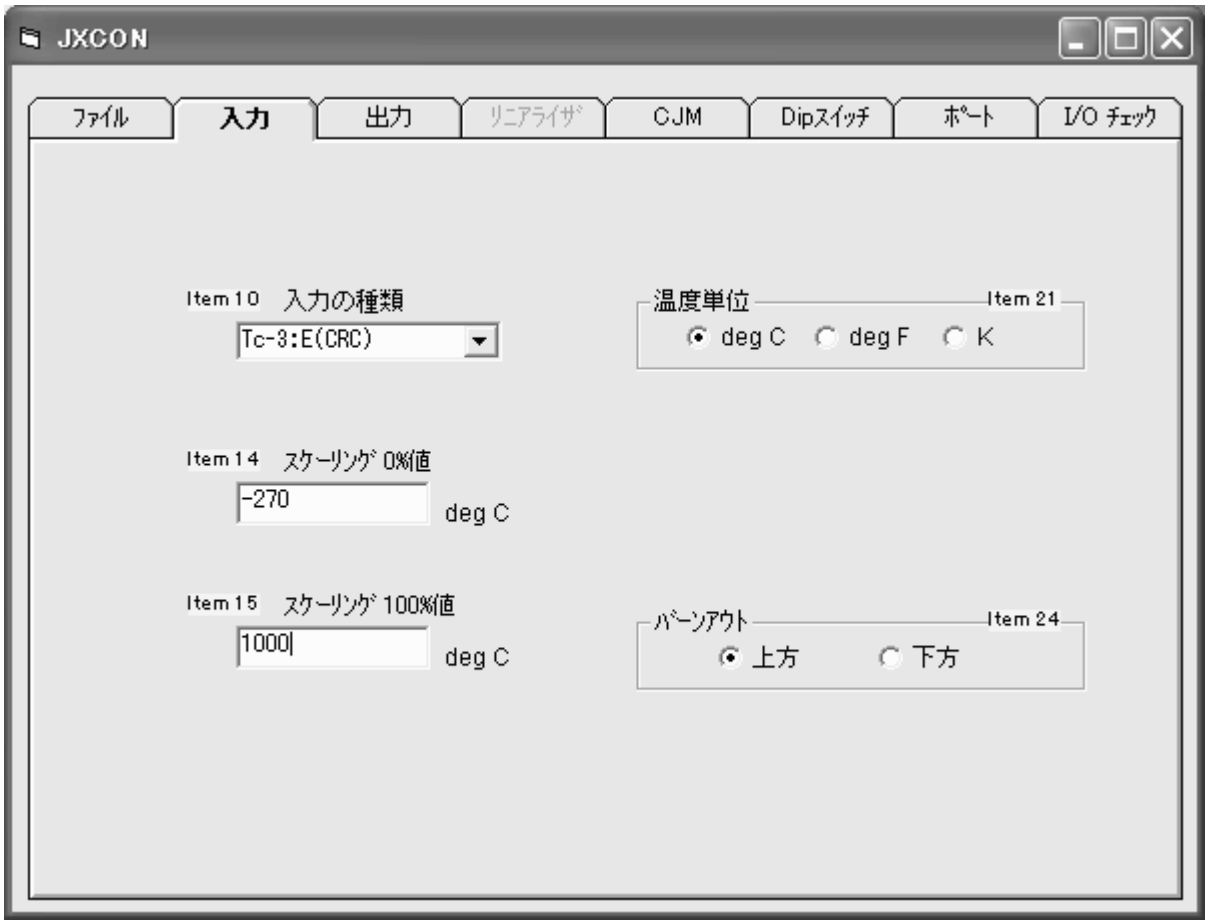
5. 画面イメージ（JUA の例）

以下に JUA 変換器での、JXCON の各ページの画面サンプルを示します。

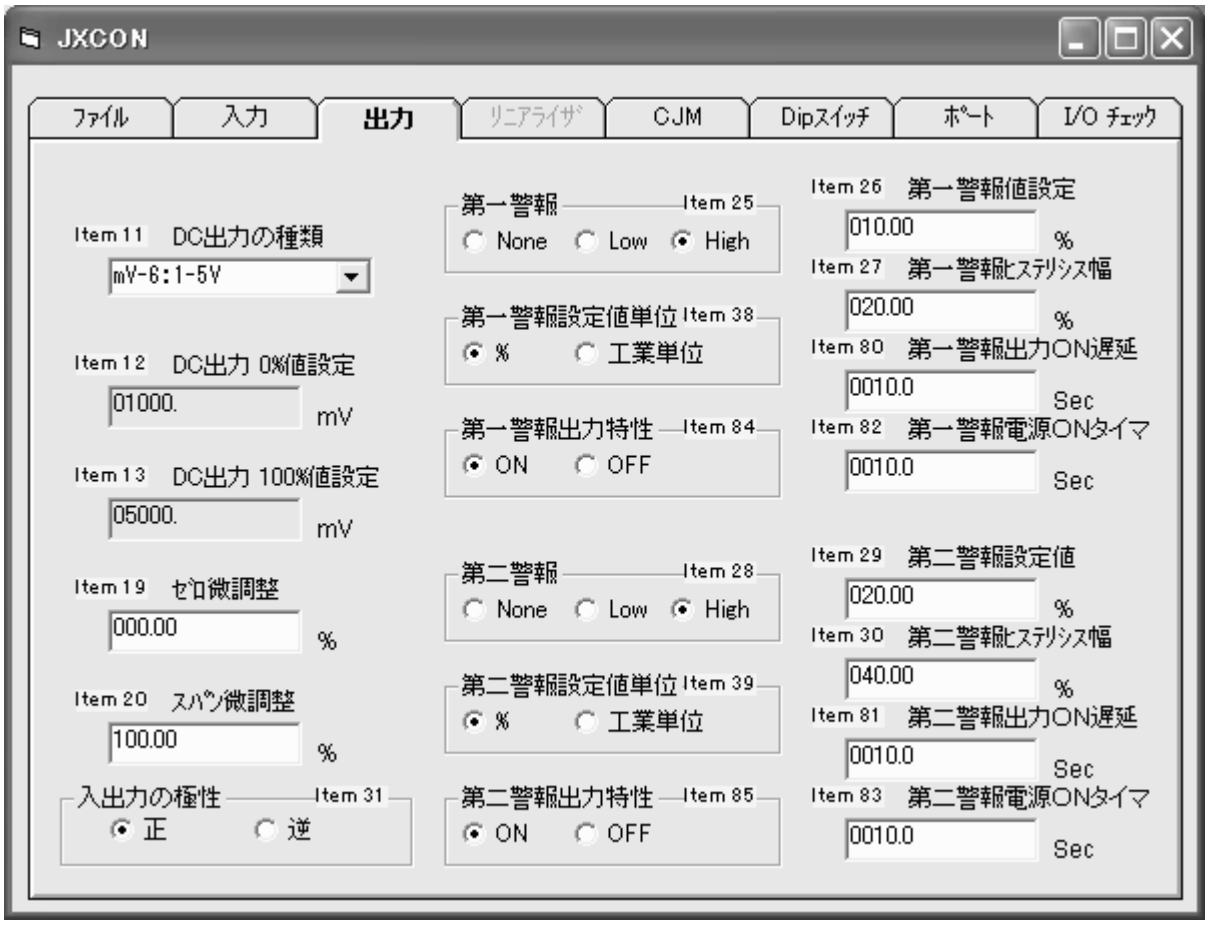
「ファイル」ページ画面



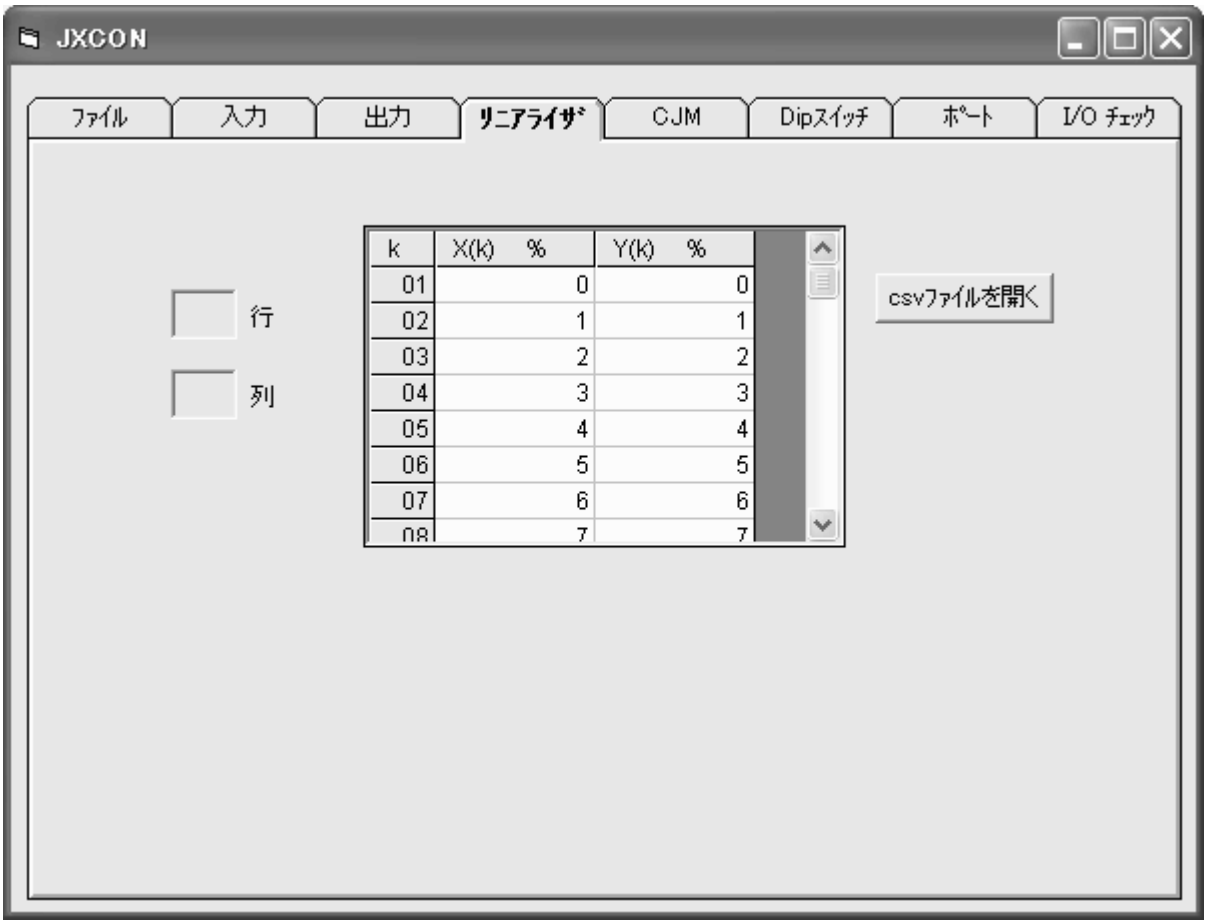
「入力」ページ画面



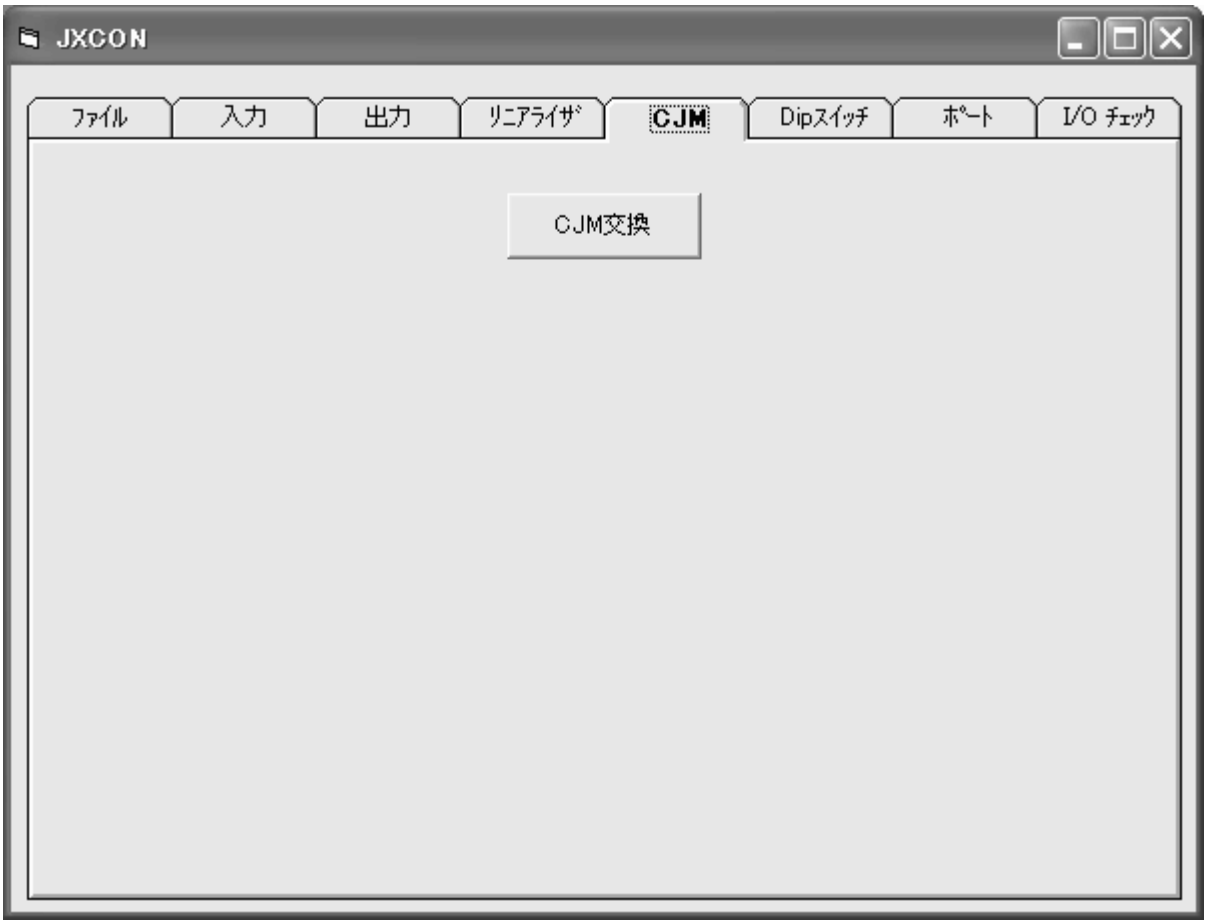
「出力」ページ画面



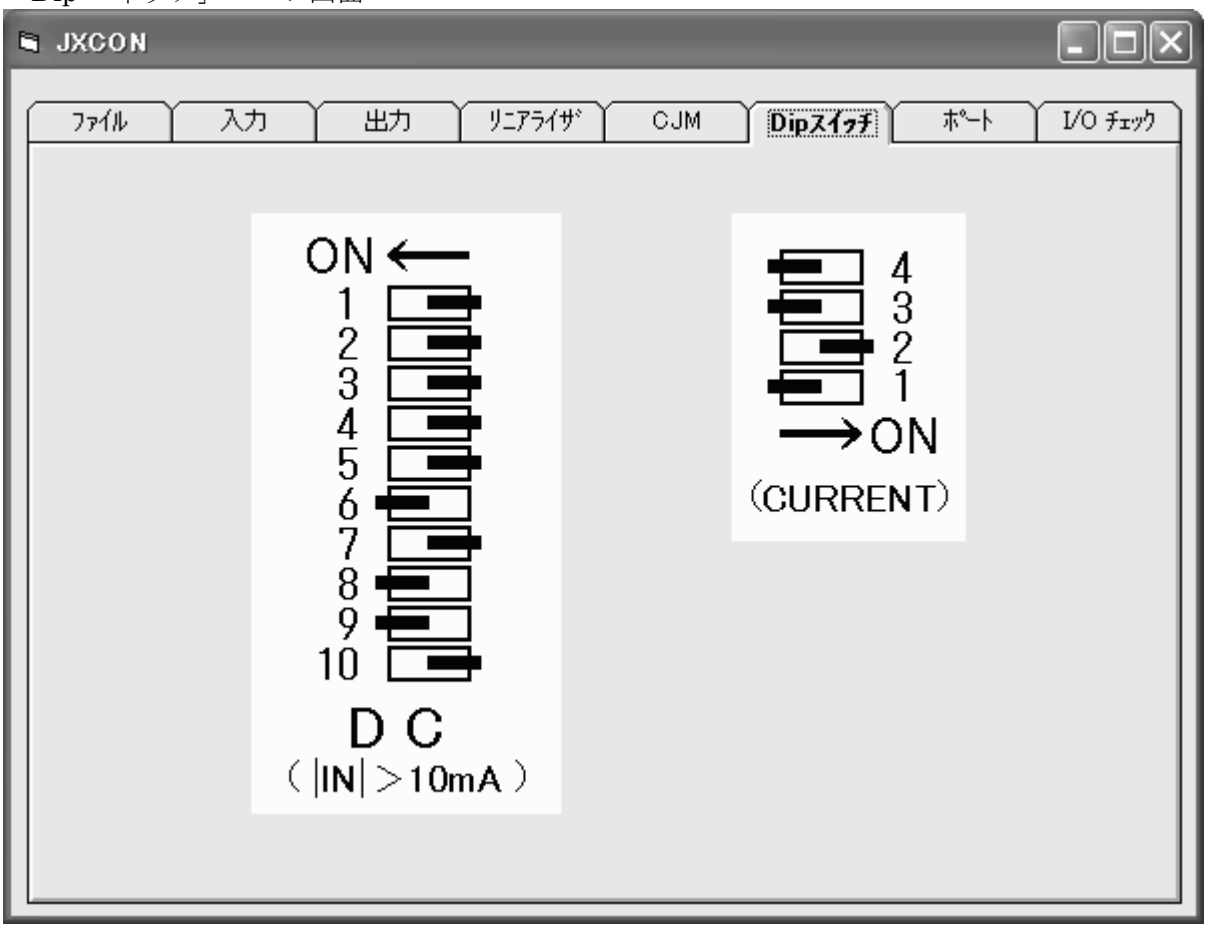
「リニアライザ」ページ画面



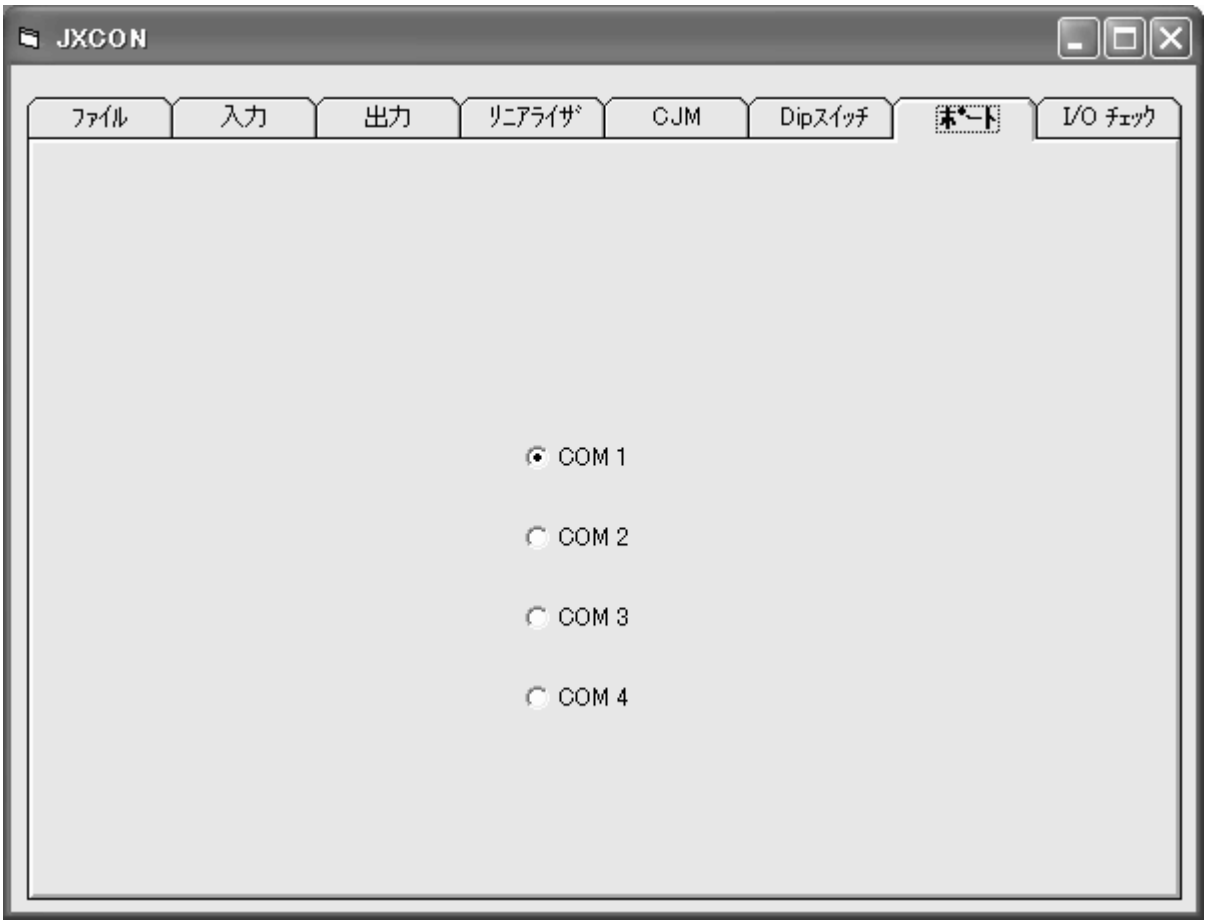
「CJM」ページ画面



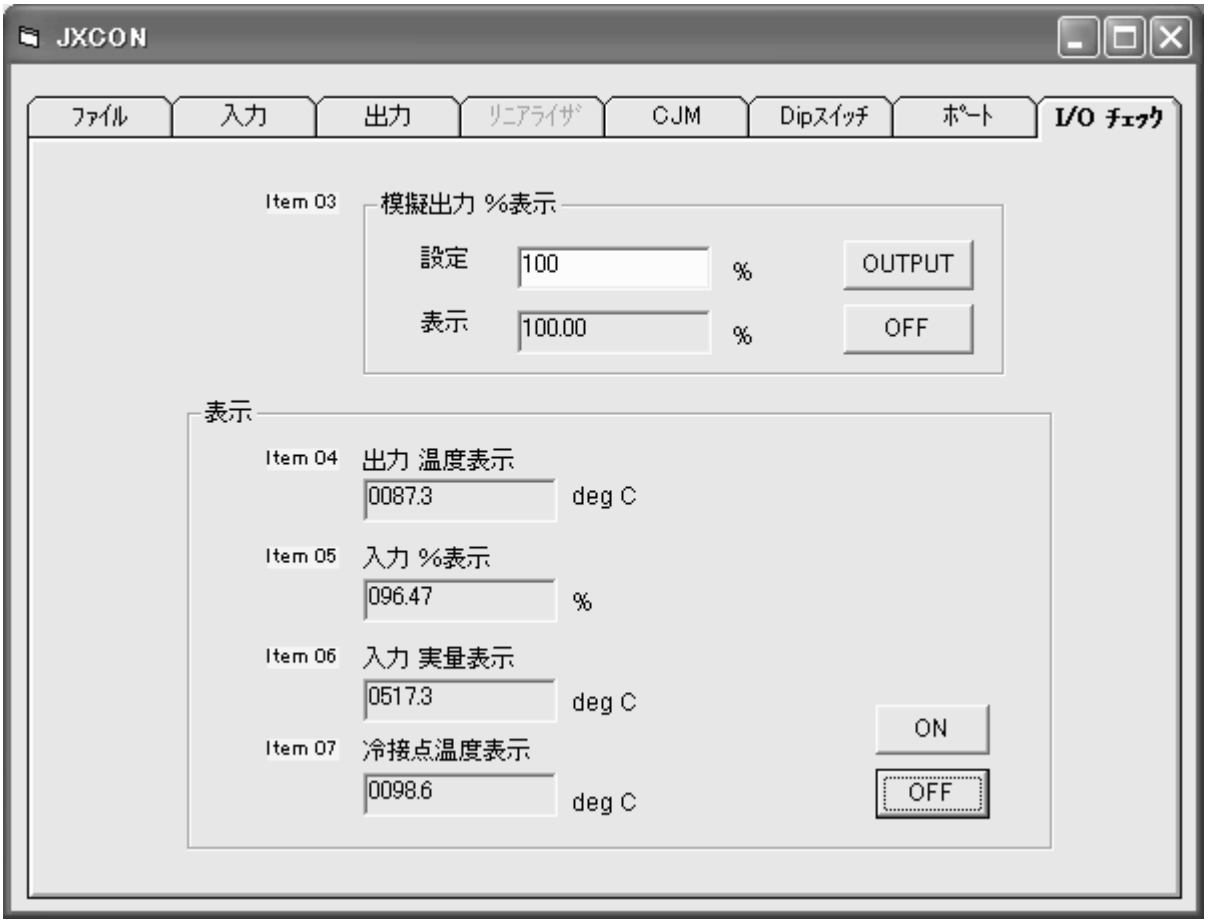
「Dip スィッチ」ページ画面



「ポート」ページ画面



「I/O チェック」ページ画面



6. V04.05 でのサポート機能

JXCON の V04.05 では、ＰＣスペック形パルスアナログ変換器（形式：M2XPA）とＰＣスペック形パルスアナログ変換器（形式：M2XPA2）をサポートしています。この節では、V04.05 で追加した新しい機能と操作について、M2XPA では「入力」ページを、M2XPA2 では「入力」ページ、「ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ」ページ、「I/O ﾁｪｯｸ」ページを画面例として用い、述べています。また、各項目についての説明、制限値については、M2XPA の構成と機能と M2XPA2 の構成と機能を参考にして下さい。

6.1. 「ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ」ページ画面

M2XPA2 の「ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ」ページでは、“テーブルデータを csv ファイルに保存する機能”と“テーブルデータのみを変換器から Read/Write する機能”を追加しました。主な機能は次の通りです。

ﾘﾆｱﾗｲｻﾞﾃｰﾌﾞﾙ　：100 点のデータ［X(01),Y(01)～X(101),Y(101)］を入力、表示します。
ﾃｰﾌﾞﾙｻｲｽﾞ　　：テーブルのサイズを入力、表示します。

<csv ﾌｧｲﾙを開く>ボタン：指定したカンマ区切りのファイル(*.csv) を読み出しその内容を表示します。
<csv ﾌｧｲﾙに保存>ボタン：画面上に作成したテーブルのデータをカンマ区切りのファイル(*.csv)にファイル名を付けて保存します。
<読み出し>ボタン　　：変換器からテーブルのデータを読み出します。
<書込み>ボタン　　：画面上に作成したテーブルのデータを変換器に書込みます。

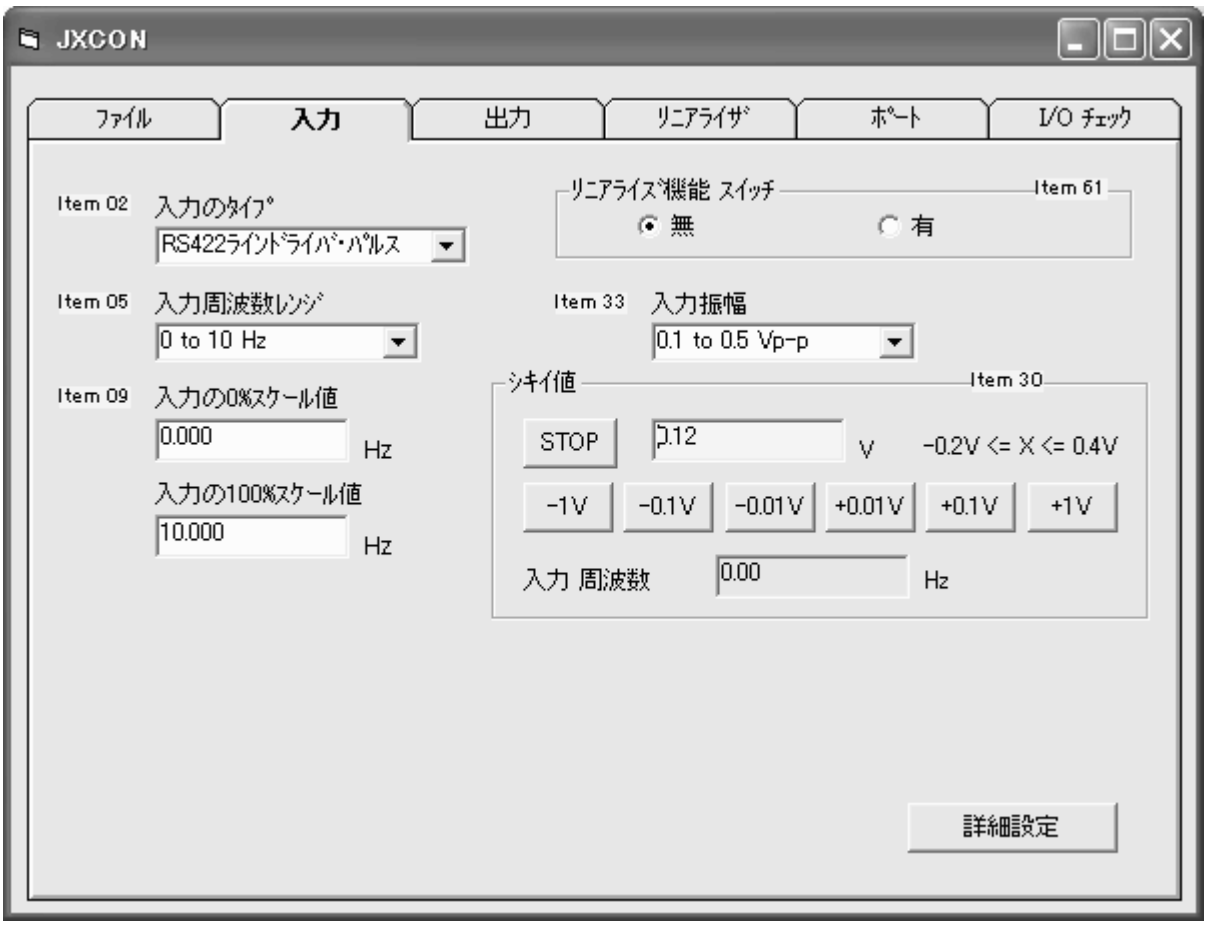
6.2. 「I/O ﾁｪｯｸ」ページ画面

「I/O ﾁｪｯｸ」ページでは、“モニタリングしながらゼロ/スパン調整する機能”を追加しました。
主な機能は次の通りです。

ｾﾞﾛ微調整　　：現在の出力ゼロ点微調整値を表示します。
ｽﾊﾟﾝ微調整　：現在の出力スパン微調整値を表示します。

<START>/<STOP>トグルボタン　：ゼロ/スパン微調整の開始／終了します。
<RESET>ボタン　　：ゼロ/スパン微調整をリセットします。
<-0.1%>ボタン　　：現在のゼロ/スパン微調整値に対する-0.1%を設定します。
<-0.01%>ボタン　　：現在のゼロ/スパン微調整値に対する-0.01%を設定します。
<+0.01%>ボタン　　：現在のゼロ/スパン微調整値に対する+0.01%を設定します。
<+0.1%>ボタン　　：現在のゼロ/スパン微調整値に対する+0.1%を設定します。

6.3. 「入力」ページ画面



M2XPA2 の「入力」ページでは、“入力周波数をモニタリングしながらシキイ値の微調整をする機能”を追加しました。
主な機能は次の通りです。

シｷｲ値　　：現在のシキイ値を表示します。
入力周波数　：現在の入力周波数を表示します。

<START>/<STOP>トグルボタン　：シキイ値と入力周波数のモニタリングを開始／終了します。
<-1V>ボタン　　：現在のシキイ値に対する-1V を設定します。
<-0.1V>ボタン　　：現在のシキイ値に対する-0.1V を設定します。
<-0.01V>ボタン　　：現在のシキイ値に対する-0.01V を設定します。
<+0.01V>ボタン　　：現在のシキイ値に対する+0.01V を設定します。
<+0.1V>ボタン　　：現在のシキイ値に対する+0.1V を設定します。
<+1V>ボタン　　：現在のシキイ値に対する+1V を設定します。
<詳細設定>ボタン　　：下記に詳細設定パラメータを記します。

- 入力スケール値の 0%から 100%の間で、カットアウト値を設定します。
- 50ms から 1000ms の間で、サンプリング時間を設定します。
- 4V,8V,12V のいずれかのセンサー用電源を設定します。

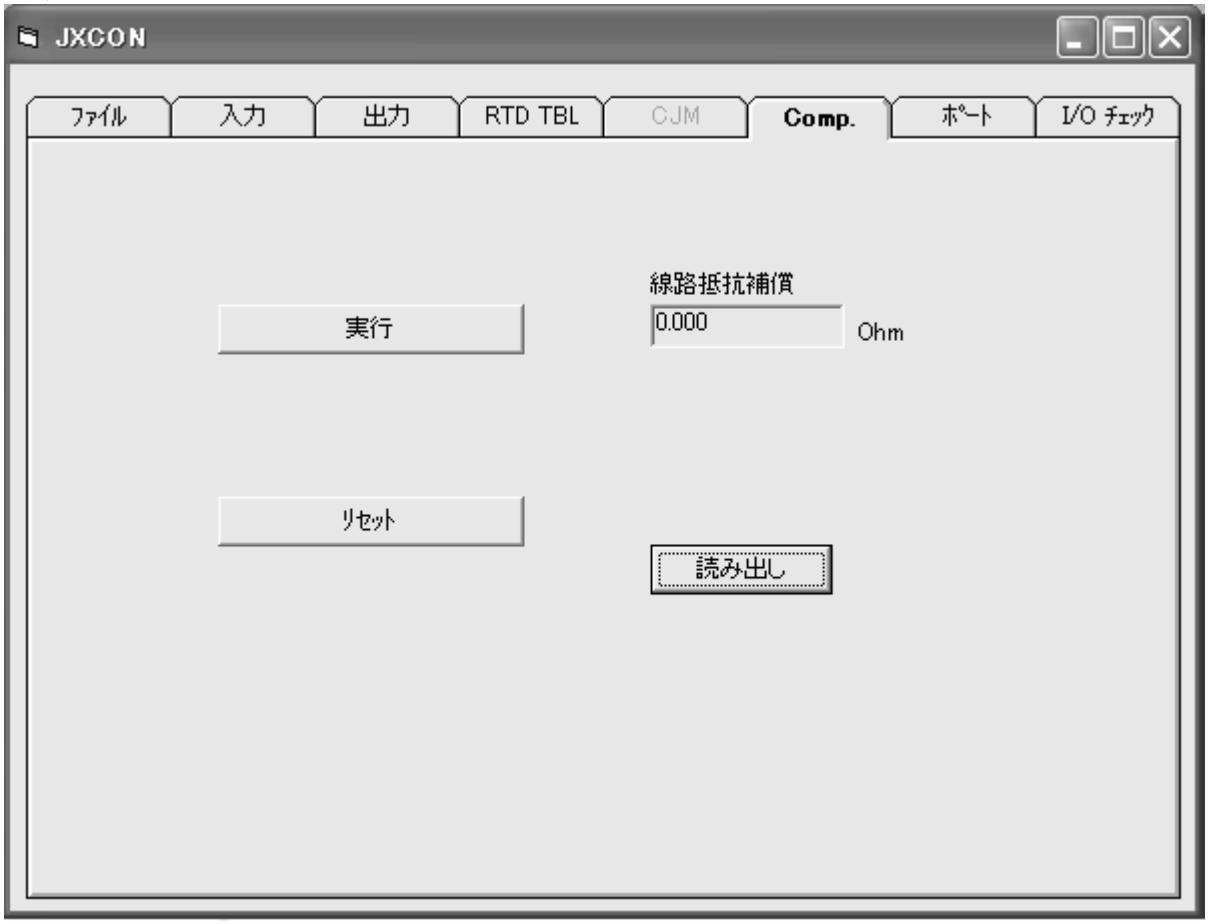
M2XPA の「入力」ページでは、入力信号コードに“B”を選択すると、入力最大電圧６Ｖ以上の処理をするかどうかの ON/OFF を決める項目が現れます。

7. V05.01 でのサポート機能

JXCON の V05.01 では、ＰＣスペック形変換器（形式：M8XV2、M8XT2、M8XR2、M8XM2、M8XV3、M8XT3、M8XR3、M8XM3）をサポートしています。この節では、V05.01 で追加した新しい機能と操作について、「Comp.」ページ、「RTD TBL」ページを画面例として用い、述べています。
また、各項目についての説明、制限値については、M8XM2、M8XR2、M8XT2、M8XV2、M8XM3、M8XR3、M8XT3、M8XV3 の構成と機能 を参考にして下さい。

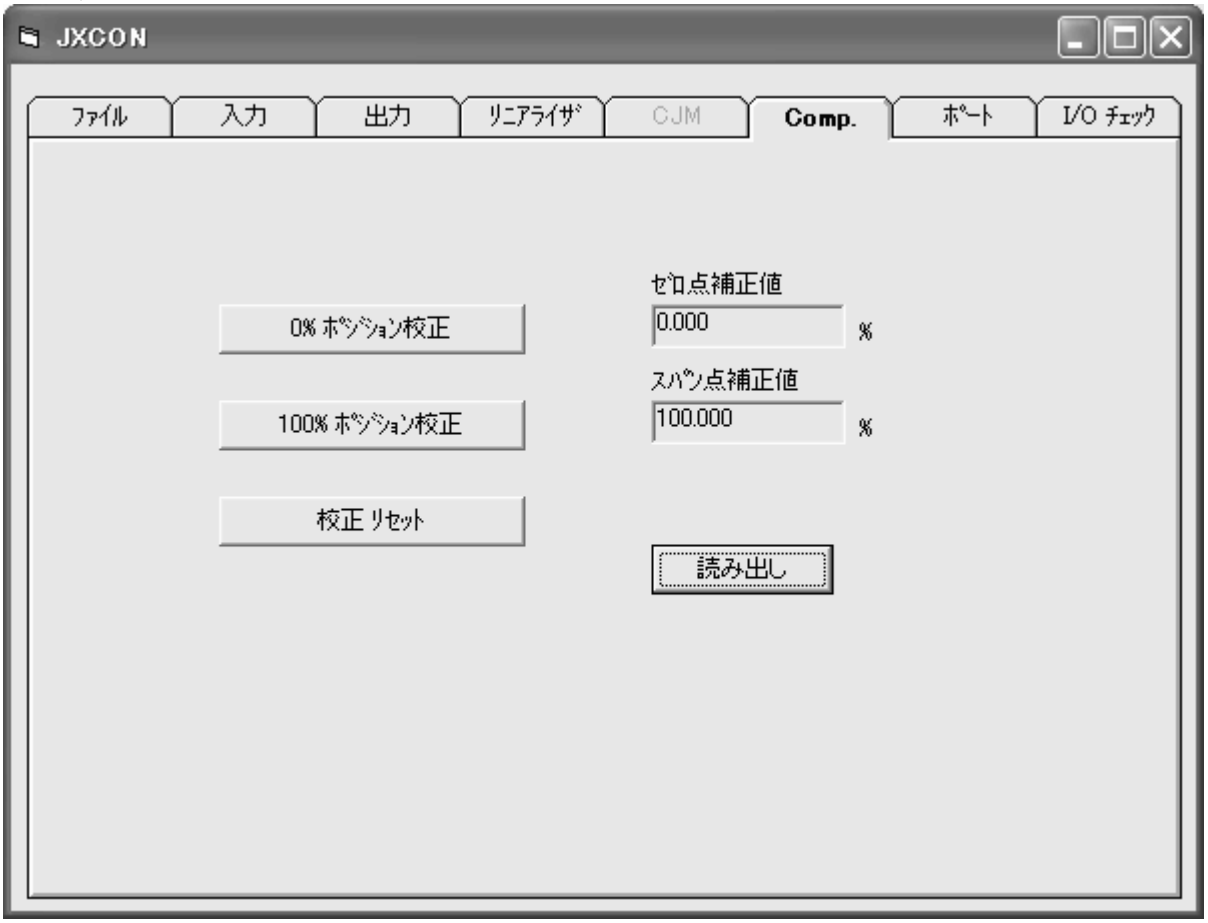
7.1. 「Comp.」ページ画面

M8XR2, M8XR3, M8XM2, M8XM3 では“センサー補正機能”があり、「Comp.」ページで設定できます。
M8XR2, M8XR3 の場合の画面と機能は次の通りです。



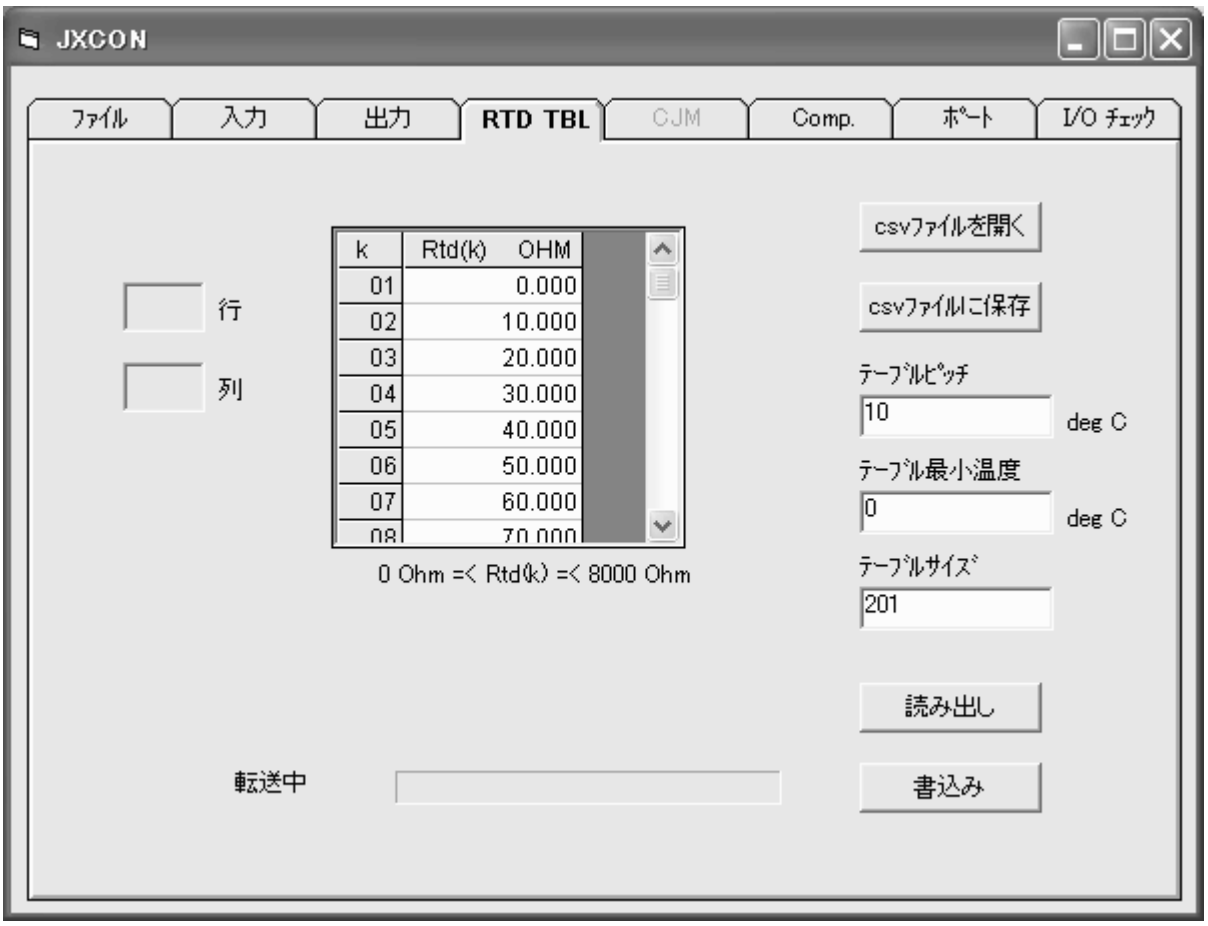
線路抵抗補償　　：現在の線路抵抗補償を表示します。
〈読み出し〉ボタン：補正値を読み出し表示します。
〈実行〉ボタン　　：測定抵抗値が 0Ω になるように補正します。
〈ﾘｾｯﾄ〉ボタン　　：補正値を初期化します。

M8XM2, M8XM3 の場合の画面と機能は次の通りです。



ｾﾞﾛ点補正値　　：現在のゼロ点補正値を表示します。
ｽﾊﾟﾝ点補正値　　：現在のスパン点補正値を表示します。
<読み出し>ボタン：補正値を読み出し表示します。
<0%ﾎﾟｼﾞｼｮﾝ校正>ボタン　：ポジションが 0%になるように補正します。
<100%ﾎﾟｼﾞｼｮﾝ校正>ボタン：ポジションが 100%になるように補正します。
<校正ﾘｾｯﾄ>ボタン　　：補正値を初期化します。

7.2. 「RTD TBL」ページ画面



「ﾘﾆｱﾗｲｻﾞ」ページ（M8XV2,M8XM2,M8XV3,M8XM3）、「TC TBL」ページ（M8XT2,M8XT3）、「RTD TBL」ページ（M8XR2,M8XR3）では、“テーブルデータを csv ファイルに保存する機能”と“テーブルデータのみを変換器から Read/Write する機能”を追加しました。主な機能は次の通りです。

ﾘﾆｱﾗｲｻﾞﾃｰﾌﾞﾙ　：100 点のデータ［X(01),Y(01)～X(101),Y(101)］を入力、表示します。
User's TC ﾃｰﾌﾞﾙ：ユーザ定義の TC テーブルのデータ［X(01)～X(300)］を入力、表示します。
User's RTD ﾃｰﾌﾞﾙ：ユーザ定義の RTD テーブルのデータ［X(01)～X(300)］を入力、表示します。
ﾃｰﾌﾞﾙｻｲｽﾞ　　：テーブルのサイズを入力、表示します。
ﾃｰﾌﾞﾙﾋﾟｯﾁ　　：テーブルの温度ステップを入力、表示します。
ﾃｰﾌﾞﾙ最小温度　：テーブルの最小温度を入力、表示します。

<csv ﾌｧｲﾙを開く>ボタン：指定したカンマ区切りのファイル(*.csv) を読み出しその内容を表示します。
<csv ﾌｧｲﾙに保存>ボタン：画面上に作成したテーブルのデータをカンマ区切りのファイル(*.csv)にファイル名を付けて保存します。
<読み出し>ボタン　　：変換器からテーブルのデータを読み出します。
<書込み>ボタン　　：画面上に作成したテーブルのデータを変換器に書込みます。

8. V07.01 でのサポート機能

JXCON の V07.01 では、ＰＣスペック形ロータリエンコーダ速度変換器（形式：M2XRP2）をサポートしています。この節では、V07.01 で追加した新しい機能と操作について、「入力」ページを画面例として用い、述べています。また、各項目についての説明、制限値については、M2XRP2 の構成と機能を参考にして下さい。

8.1. 「入力」ページ画面

M2XRP2 の「入力」ページでは、“入力周波数をモニタリングしながらシキイ値の微調整をする機能”を追加しました。
主な機能は次の通りです。

シキイ値　　：現在のシキイ値を表示します。
入力周波数　：現在の入力周波数を表示します。

<START>/<STOP>トグルボタン　：シキイ値と入力周波数のモニタリングを開始／終了します。
<-1V>ボタン　　：現在のシキイ値に対する-1V を設定します。
<-0.1V>ボタン　　：現在のシキイ値に対する-0.1V を設定します。
<-0.01V>ボタン　　：現在のシキイ値に対する-0.01V を設定します。
<+0.01V>ボタン　　：現在のシキイ値に対する+0.01V を設定します。
<+0.1V>ボタン　　：現在のシキイ値に対する+0.1V を設定します。
<+1V>ボタン　　：現在のシキイ値に対する+1V を設定します。